

男女平等参画に関する大学生の意識調査

(調査結果報告書)

平成 28 年 3 月

名古屋市男女平等参画推進会議

(男女平等参画若年層調査研究会)

目 次

I 調査の概要

1	調査の目的.....	3
2	調査対象.....	3
3	調査方法.....	3
4	調査研究会の設置.....	3
5	回答者の属性.....	4

II 各分野における意識と実態

1	男女平等意識について	
問 1	性別役割分担についての考え	5
問 1-1	賛成とする理由	6
問 1-2	反対とする理由	7
問 2	女性が職業を持つことについての考え	8
問 2-1	女性は職業を持たない方がよいとする理由	9
問 2-2	女性は職業を持った方がよいとする理由	10
問 3	女性の活躍が進んだ時の影響	11
問 4	女性の活躍を進めるに際しての障害	12
問 5	男女の地位の平等感	13
2	人生キャリアについて	
問 6	仕事と生活の理想	14
問 7	就職先選択に際して重視する項目	16
3	結婚や家族について	
問 8	結婚に対する意識	17
問 9	将来子どもを持つことへの意識	18
問 10	子どもを持つことに対する意識.....	19
問 11	親の家庭内での役割分担.....	20
4	男女平等に関する教育について	
問 12	男女平等教育の学習経験と時期.....	21
問 13	男女平等教育の必要性和適する時期.....	24
問 14	学校で必要な男女平等の取組に関する意識.....	30
5	人権に関わる問題について	
問 15	交際経験とDVなどの被害経験.....	31
問 16	DVの噂・目撃・相談を受けた経験.....	33
問 17	DV被害などを受けた場合の相談先.....	34
問 18	言葉の認知度.....	35

Ⅲ 調査結果に基づく課題と提案

1 各分野における課題と提案	
（1）男女平等意識について.....	38
（2）人生キャリアについて.....	40
（3）結婚や家族について.....	41
（4）男女平等に関する教育について.....	42
（5）人権に関わる問題について.....	43
2 今後に向けて.....	44

Ⅳ 資 料

資料1 調 査 票.....	45
資料2 自由意見欄（抄録）.....	57

表記について

統計表中、次のように表記している。

- ・ n は回答者数を示す。
- ・ 複数回答の比率の合計は 100%を超える。
- ・ 構成比は選択肢ごとに小数点以下第 2 位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも 100%とはならない。

I 調査の概要

1 調査の目的

この調査は、仕事や結婚、家族、教育、人権などについて、男女平等参画の視点から、大学生の意識と実態を把握することにより、若年層に対する男女平等参画の効果的な意識啓発につなげるとともに、今後の男女平等参画施策の推進に資する事業検討に向けた基礎資料とする。

2 調査対象

名古屋市域の国公立大学 11 校に在籍する大学生

3 調査方法

(1) 調査方法 配布回収による、無記名自記式の質問調査
各大学に対して、個別に協力要請を行い、協力校に対して、アンケート用紙の配布・回収を行った。

(2) 調査期間 平成 27 年 4～5 月

(3) 回収状況

【配布数】	2,400 件
【回収数】	2,056 件
【回収率】	85.7%
【有効回収数】	2,006 件（女性 1,328 名、男性 672 名、その他 6 名）
【有効回収率】	83.6%

※性別「その他」を 6 名が選択した。本調査は、主に性別という視角から分析を行うため、少数のデータから得られる平均値や比率は誤差（偏り）が大きいため、性別「その他」の 6 名については分析対象には含めず、統計グラフに表記していない。

4 調査研究会の設置

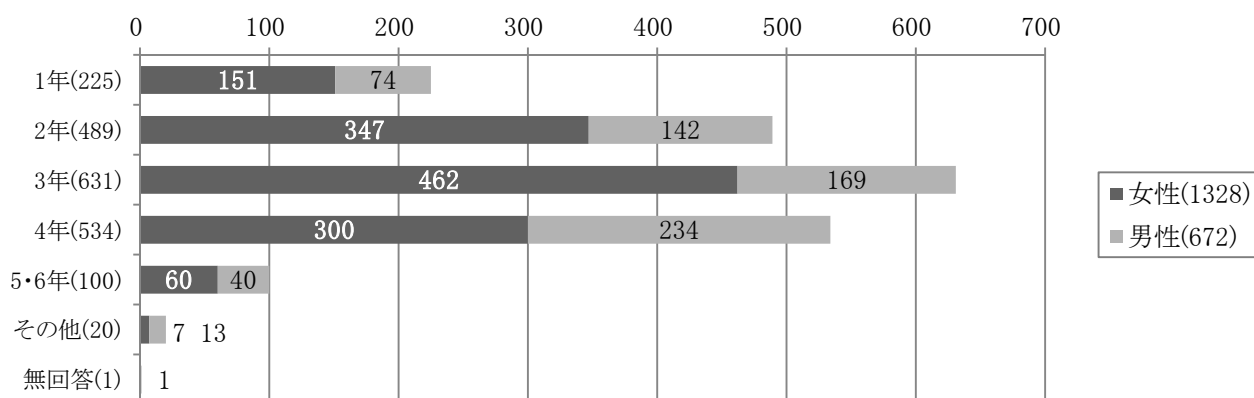
名古屋市男女平等参画推進会議（事務局：名古屋市総務局男女平等参画推進室）の事業として本調査を実施するにあたり、調査項目の検討及び調査結果の分析等を行うため、当会議の企画委員会として、会長が指名する者で構成する「男女平等参画若年層調査研究会」を設置した。

メンバーは以下のとおり。

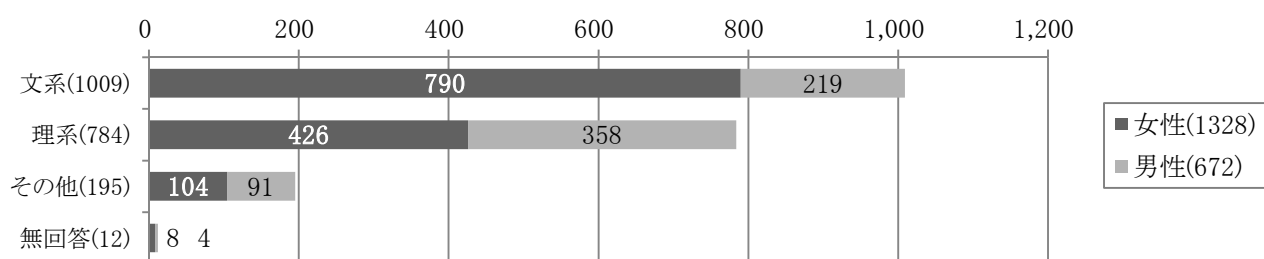
委員長	藤原 直子	（椋山女学園大学人間関係学部 教授）
委員	三枝麻由美	（名古屋大学男女共同参画室 助教）
委員	佐藤 洋子	（名古屋市立大学男女共同参画推進センター 特任助教）

5 回答者の属性

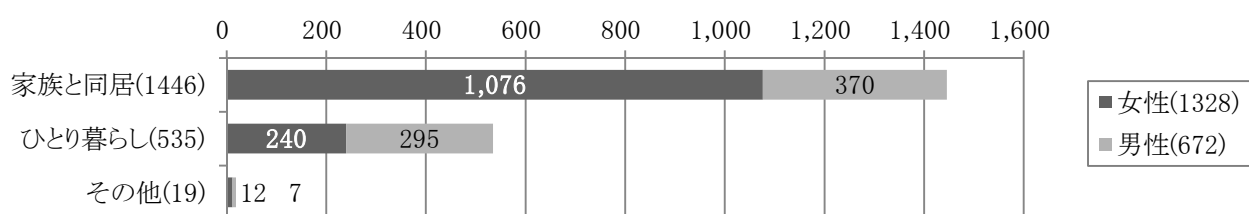
(1) 学年



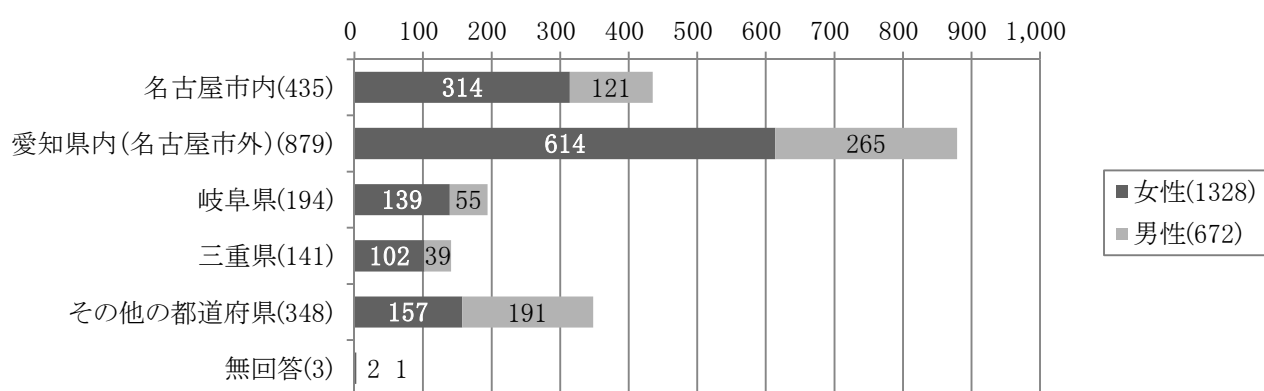
(2) 学部



(3) 生活スタイル



(4) 高校生のときの居住地



Ⅱ 各分野における意識と実態

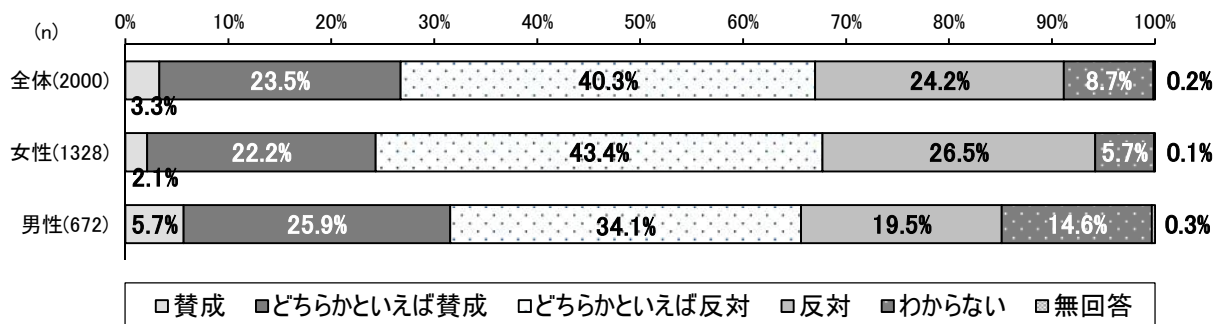
1 男女平等意識について

性別役割分担についての考え

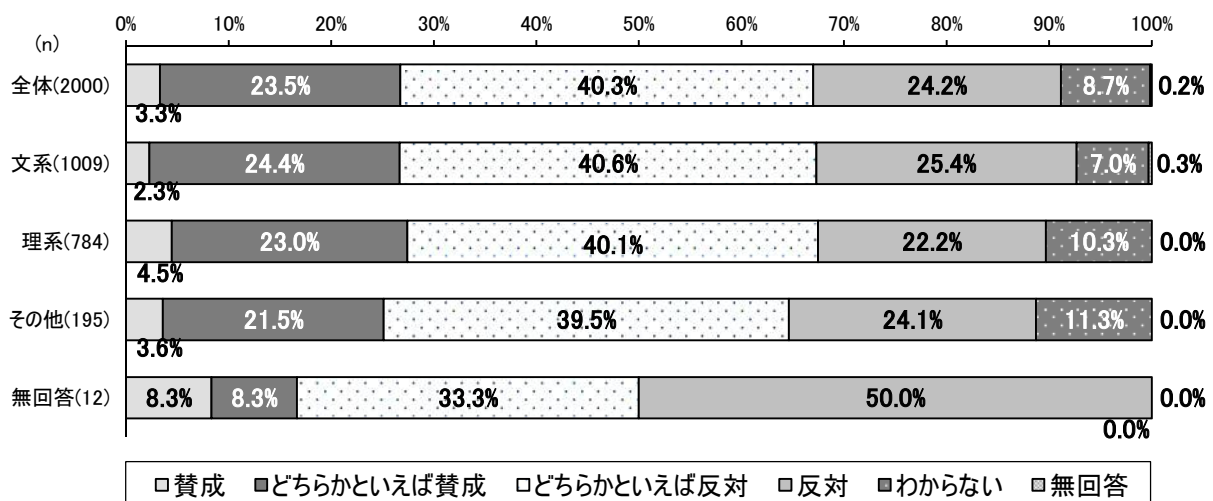
- 女性の約7割が反対とし、男性の半数以上が反対と回答。大学生においては、性別役割分担意識に反対する意見が多くを占めた。
- 文系、理系での回答割合に大きな違いは見られなかった。
- 平成26年9月に名古屋市が実施した「男女平等参画に関する基礎調査」（以下「基礎調査」という。）において、名古屋市民は全国平均よりもやや伝統的な性別役割分担意識を持つことが明らかになっている。本調査から、名古屋の大学生の反対の声は全国平均を上回っており、若年層では、30歳代より上の世代よりも性別役割分担意識への反対が多いと言える。

問1 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方について、あなたのご意見にもっとも近いものはどれでしょうか。

●性別



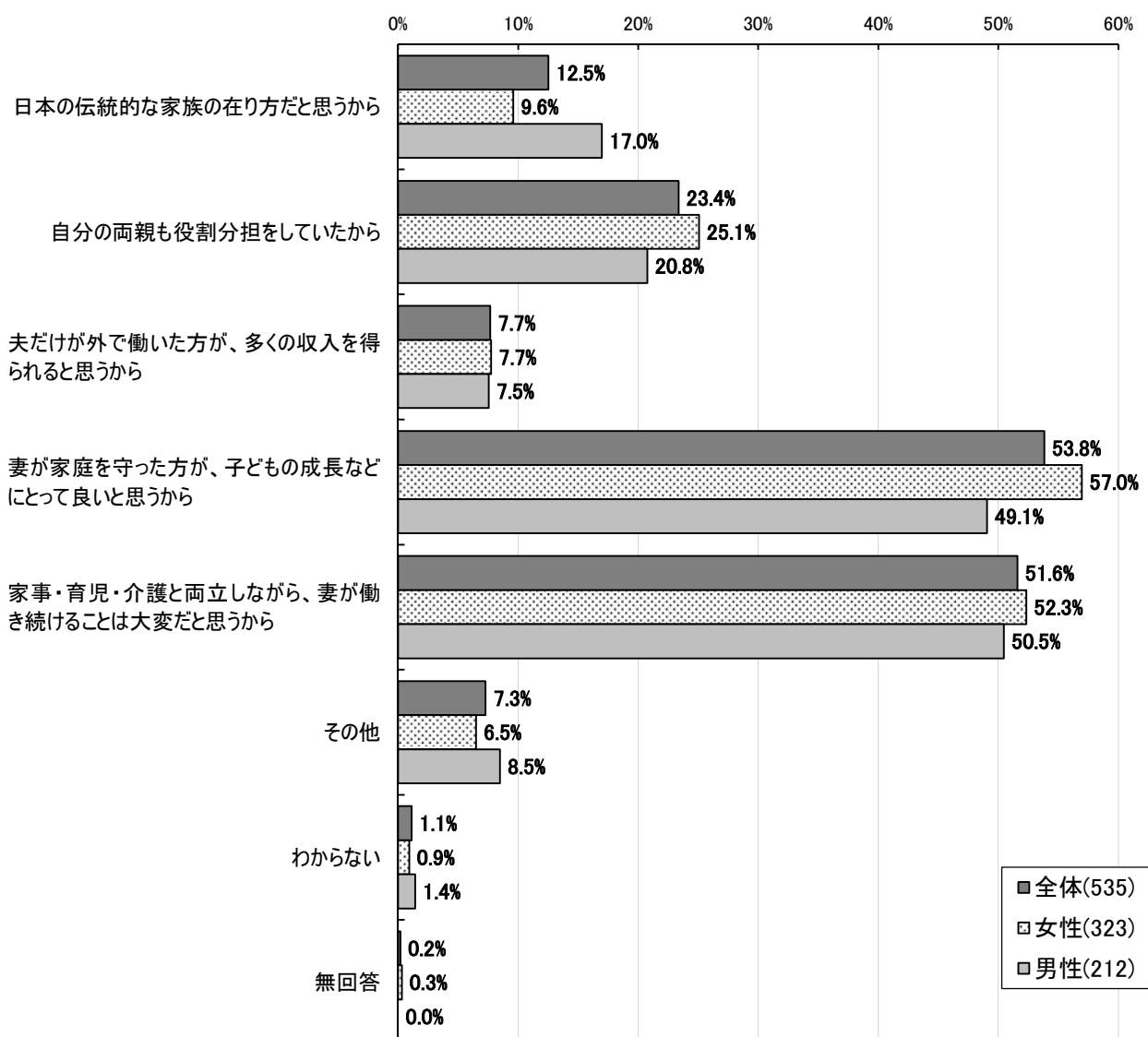
●学部別



賛成とする理由

- 性別役割分担を賛成とする理由として、男女ともに「妻が家庭を守った方が、子どもの成長などにとって良いと思うから」および「家事・育児・介護と両立しながら、妻が働き続けることは大変だと思うから」への回答が集中しており、つぎに「自分の両親も役割分担をしていたから」が続いている。
- 内閣府が平成 26 年に実施した『女性の活躍推進に関する世論調査』（以下「内閣府による世論調査」という。）と比べると、上位 2 つの理由は同じだが、2 番目の「妻が働き続けることは大変」を選択した大学生の割合が世論調査を上回っている。

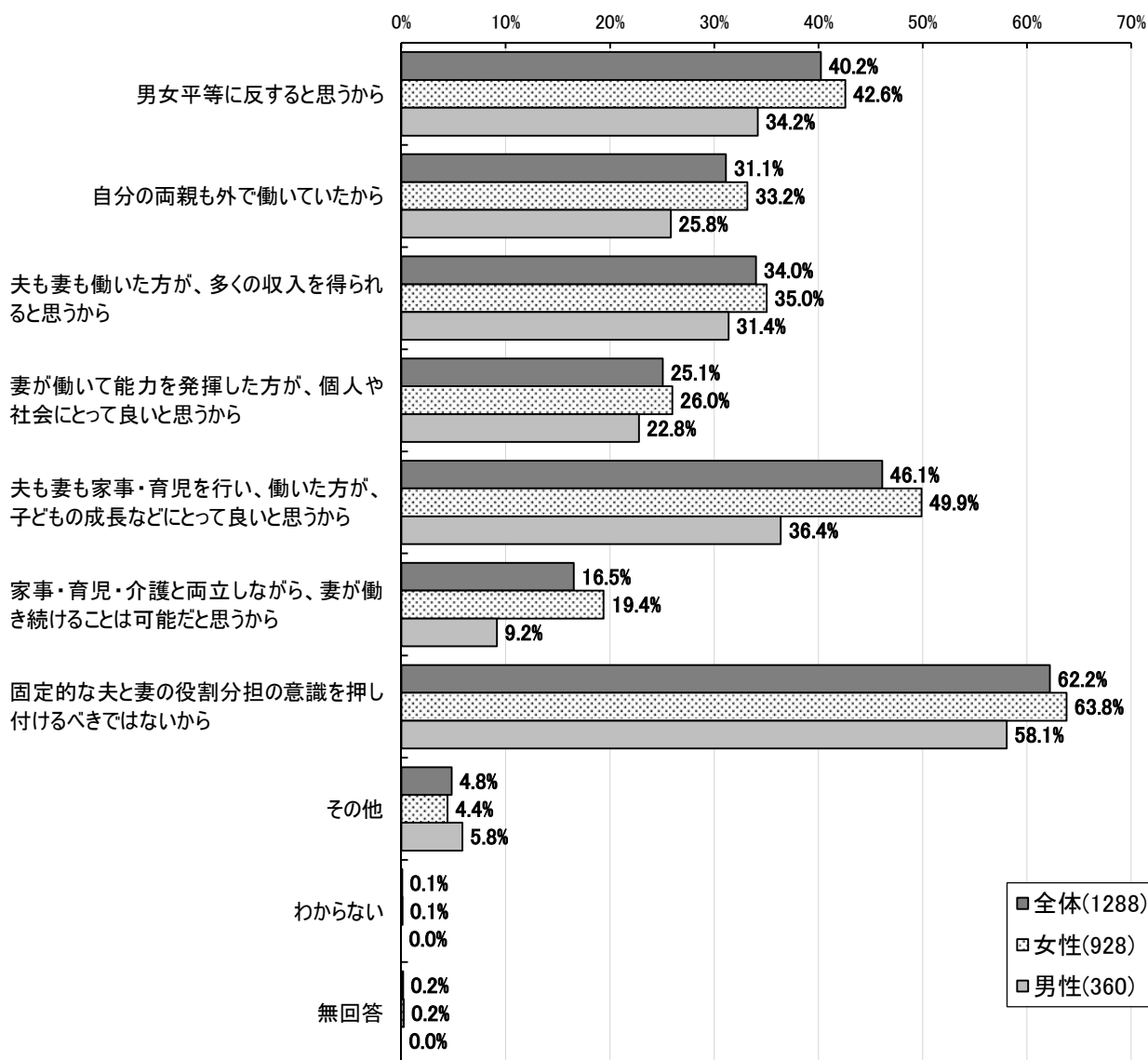
問 1－1 （問 1 で「1 賛成」、「2 どちらかといえば賛成」と答えた方のみ） それはなぜですか。＜複数回答＞



反対とする理由

- 性別役割分担を反対とする理由として、「固定的な夫と妻の役割分担の意識を押し付けるべきではないから」、「夫も妻も家事・育児を行い、働いた方が、子どもの成長などにとって良いと思うから」、「男女平等に反すると思うから」が上位3つであった。
- 内閣府による世論調査では、「固定的な夫と妻の役割分担の意識を押し付けるべきではないから」、「妻が働いて能力を発揮した方が、個人や社会にとって良いと思うから」、「夫も妻も働いた方が、多くの収入が得られると思うから」が上位3つの理由となっている。世論調査では、「夫も妻も家事・育児を行い、働いた方が、子どもの成長などにとって良いと思うから」の選択肢は含まれていない。
- 子どもの成長にとってよいとする意見は、性別役割分担の賛成および反対の両方で上位理由に選ばれていることが興味深い。

問1-2 (問1で「3 どちらかといえば反対」、「4 反対」と答えた方のみ)
それはなぜですか。＜複数回答＞

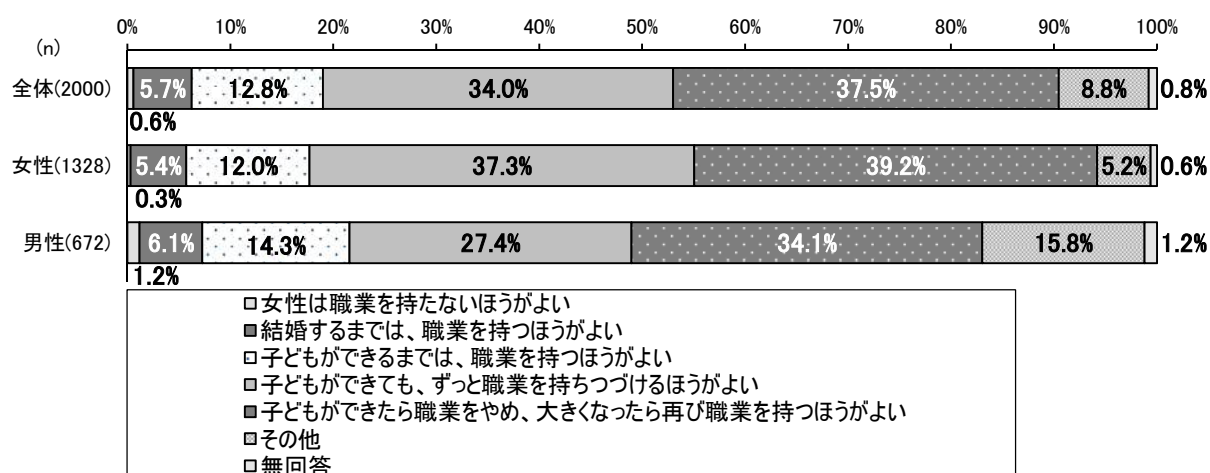


女性が職業を持つことについての考え

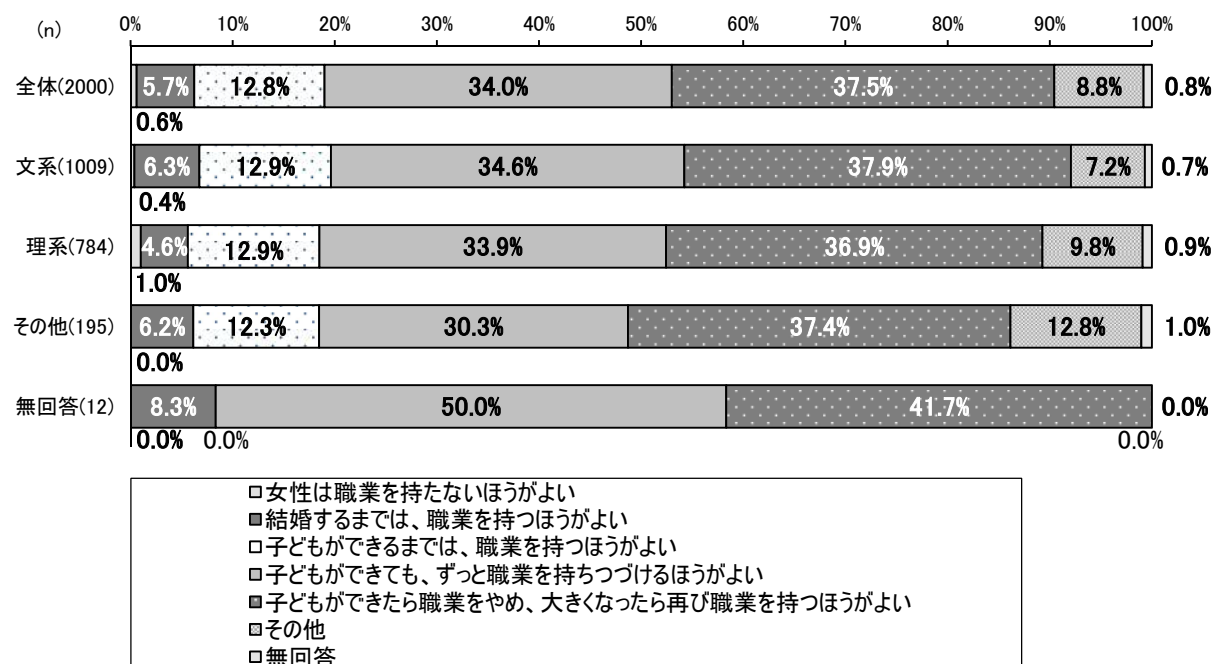
- 女性では、「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つほうがよい（再就職型）」および「子どもができて、ずっと職業を持ち続けるほうがよい（継続型）」の支持がほぼ肩を並べている。一方、男性では、再就職型の支持が継続型を上回っている。
- 基礎調査によると、名古屋市民では、女性では継続型を支持する者が若干上回る。男性は大学生男性と同様に、再就職型の支持が上回っている。
- 内閣府による世論調査では、継続型が再就職型を1割以上上回っている。
- 文系、理系での回答割合に大きな違いは見られなかった。

問2 女性が職業を持つことについて、あなたはどうお考えですか。

●性別



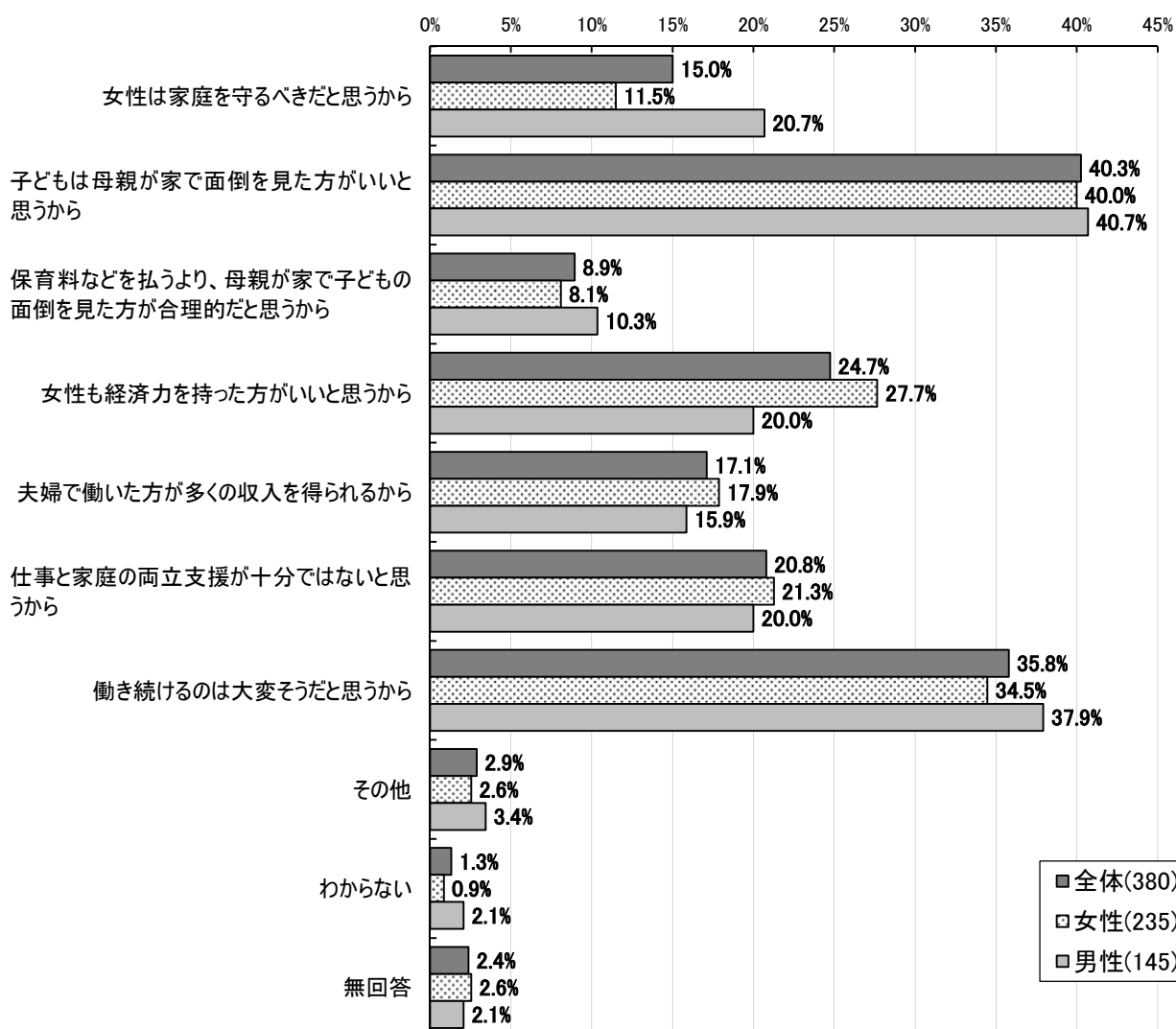
●学部別



女性は職業を持たない方がよいとする理由

- 女性が職業を持たない方がよいとする理由として、「子どもは母親が家で面倒を見た方がいいと思うから（母親役割）」、「働き続けるのは大変そうだと思うから（両立困難）」を選ぶ者が多かった。
- 内閣府による世論調査では、母親役割を支持する者が最も多く、続いて「女性は家庭を守るべきだと思うから（女性は家庭）」であった。大学生では、とりわけ女性で、「女性は家庭」を支持する割合は低いことから、若い世代において性別役割分担意識が薄れている傾向が読み取れる。

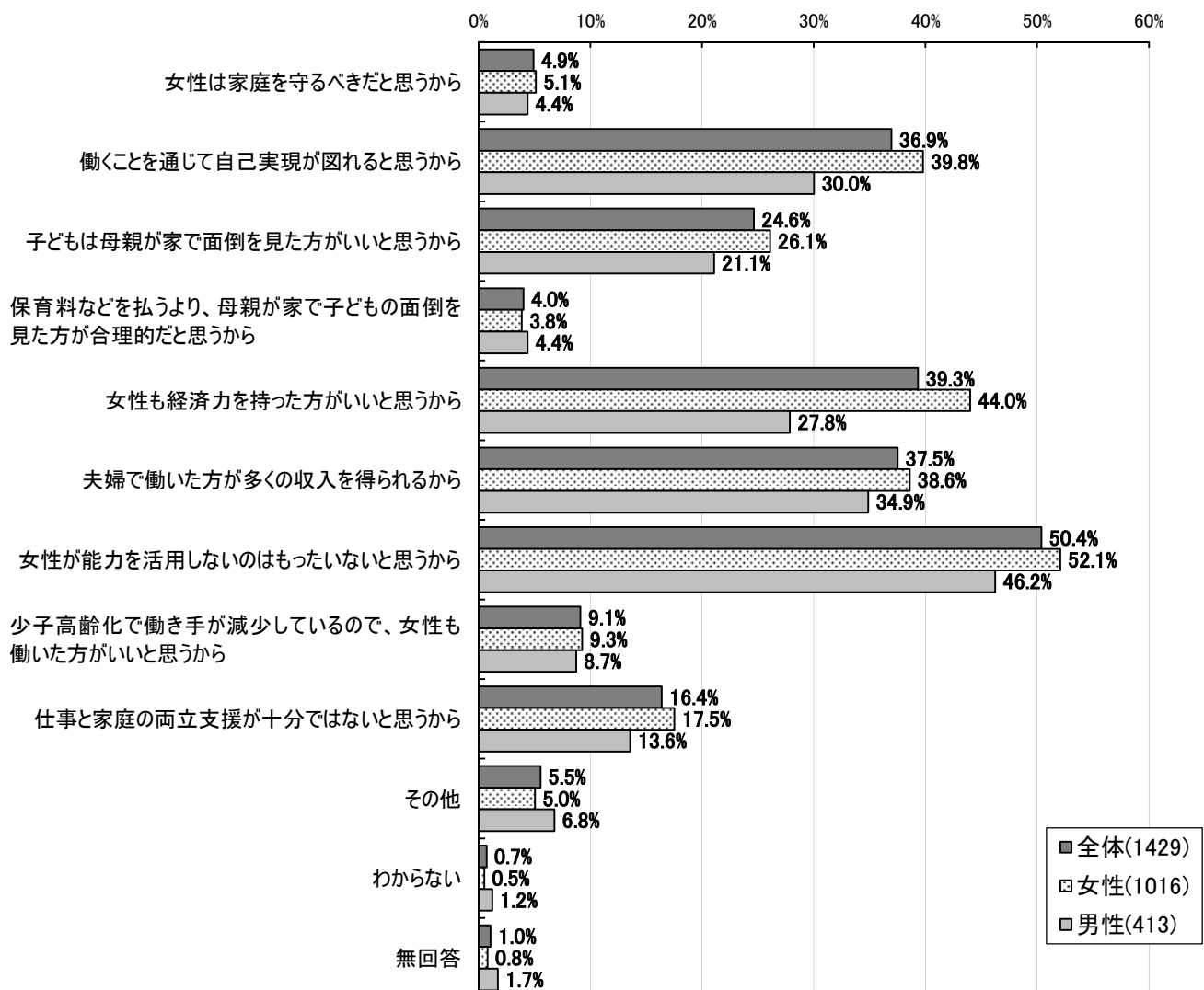
問 2 - 1（問 2 で「1 女性は職業を持たないほうがよい」、「2 結婚するまでは、職業を持つほうがよい」、「3 子どもができるまでは、職業を持つほうがよい」と答えた方のみ）
それはなぜですか。＜複数回答＞



女性は職業を持った方がよいとする理由

- 女性は職業を持った方がよいとする理由として、「女性が能力を活用しないのはもったいないと思うから（女性の能力活用）」を支持する者が最も多く、「女性も経済力を持った方がいいと思うから（女性の経済力）」、「夫婦で働いた方が多くの収入を得られるから（ダブルインカム）」が続いた。男女比で見ると、いずれの項目でも、割合では女性が男性を若干上回った。
- 内閣府による世論調査でも、「女性の能力活用」、「女性の経済力」、「ダブルインカム」が上位の理由であった。

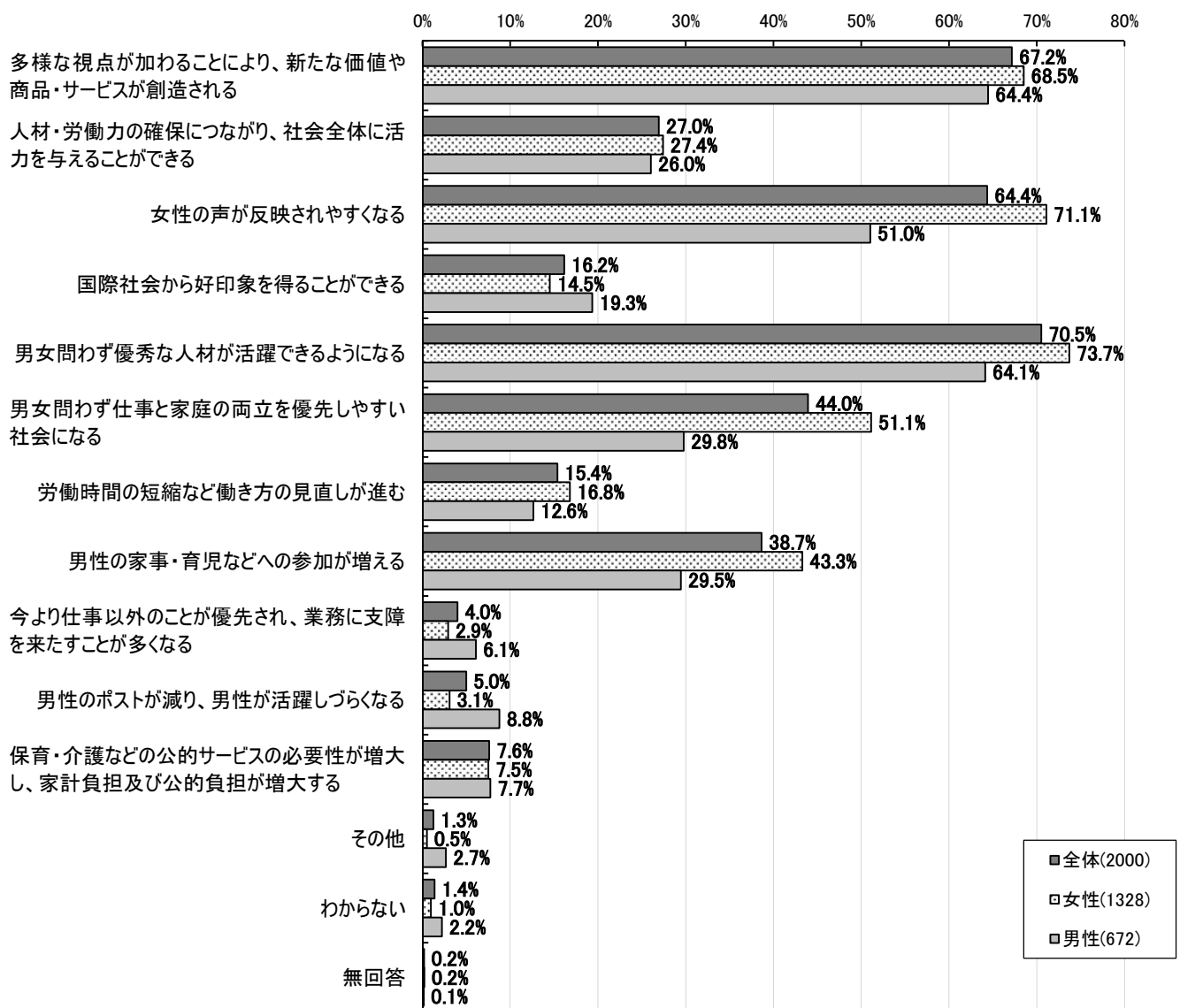
問 2－2（問2で「4 子どもができて、ずっと職業を持ちつづけるほうがよい」、「5 子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つほうがよい」と答えた方のみ）
それはなぜですか。＜複数回答＞



女性の活躍が進んだ時の影響

- 「男女問わず優秀な人材が活躍できるようになる（優秀な人材の活用）」、「女性の声が反映されやすくなる（女性の声が反映）」、「多様な視点が加わるにより、新たな価値や商品・サービスが創造される（新たな価値の創造）」が、上位3つの回答であった。
- 内閣府による世論調査でも、同様に、「多様な人材」、「女性の声が反映」、「新たな価値の創造」が上位3項目を占めた。
- 女性の活躍が進んだ時の影響として、男性が活躍しづらくなる等のマイナスな影響を指摘する者は非常に少なく、女性が活躍することのプラス面を指摘する者が圧倒的であった。

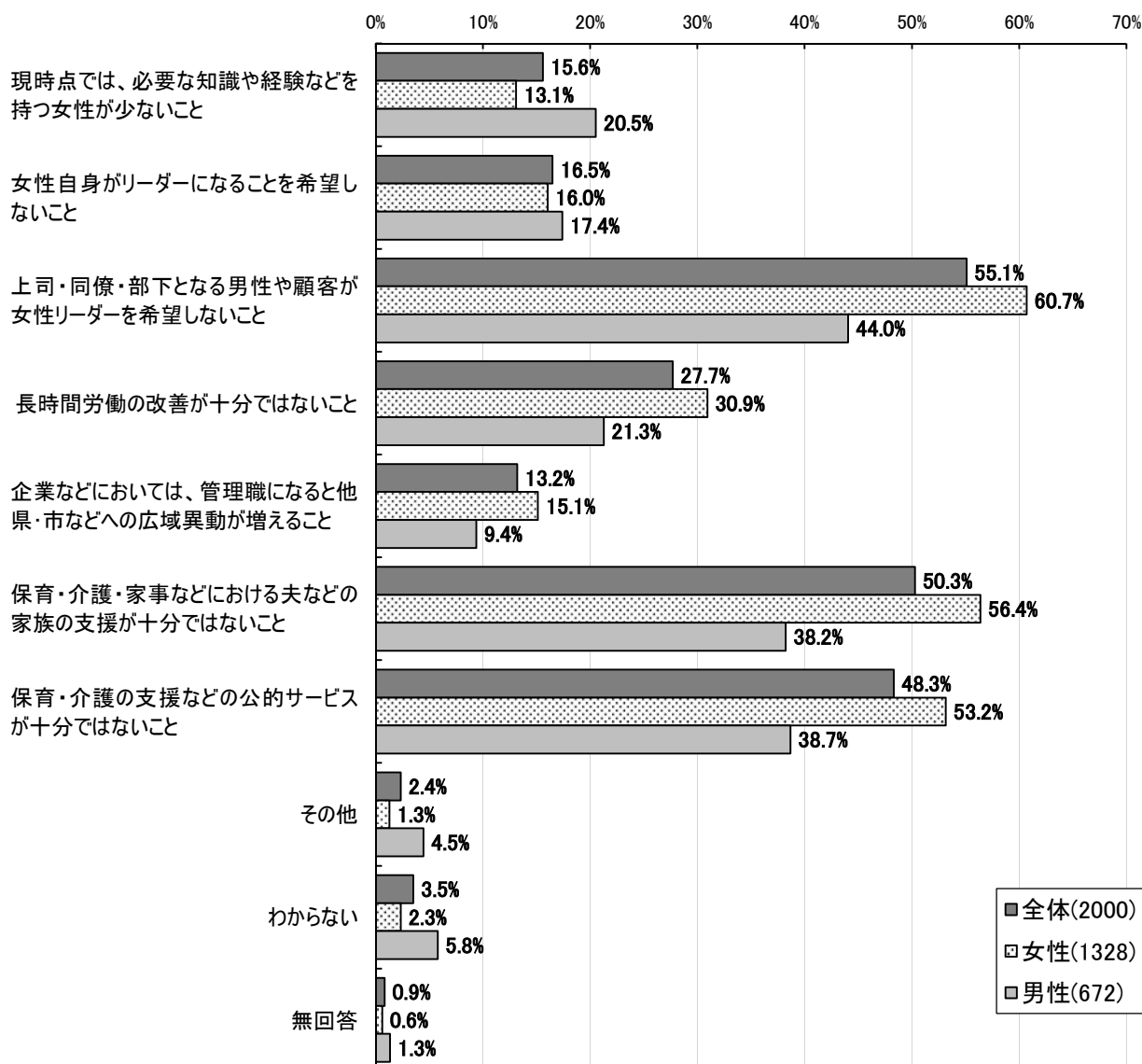
問3 あなたは、政治・経済・地域などの各分野で、女性の参加が進み、女性のリーダーが増えるとどのような影響があると思いますか。＜複数回答＞



女性の活躍を進めるに際しての障害

- 「上司・同僚・部下となる男性や顧客が女性リーダーを希望しないこと（男性が女性リーダーを希望しない）」、「保育・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分ではないこと（家族支援が不十分）」、「保育・介護の支援などの公的サービスが十分ではないこと（公的サービスが不十分）」が、上位3つの理由であった。とりわけ、女性の声が多かった。
- 「現時点では、必要な知識や経験などを持つ女性が少ないこと」においては、男性の割合が女性を上回った。
- 内閣府による世論調査では、「家族支援が不十分」、「公的サービスが不十分」、「長時間労働」が、上位3つの理由であり、「男性が女性リーダーを希望しない」は第4位であった。大学生は男女ともに「男性が女性リーダーを希望しない」と答え、また男性は「女性のリーダー予備軍が少ない」ことも理由としてあげており、男性中心の社会において女性がリーダーになることの困難さを指摘する割合が高い。

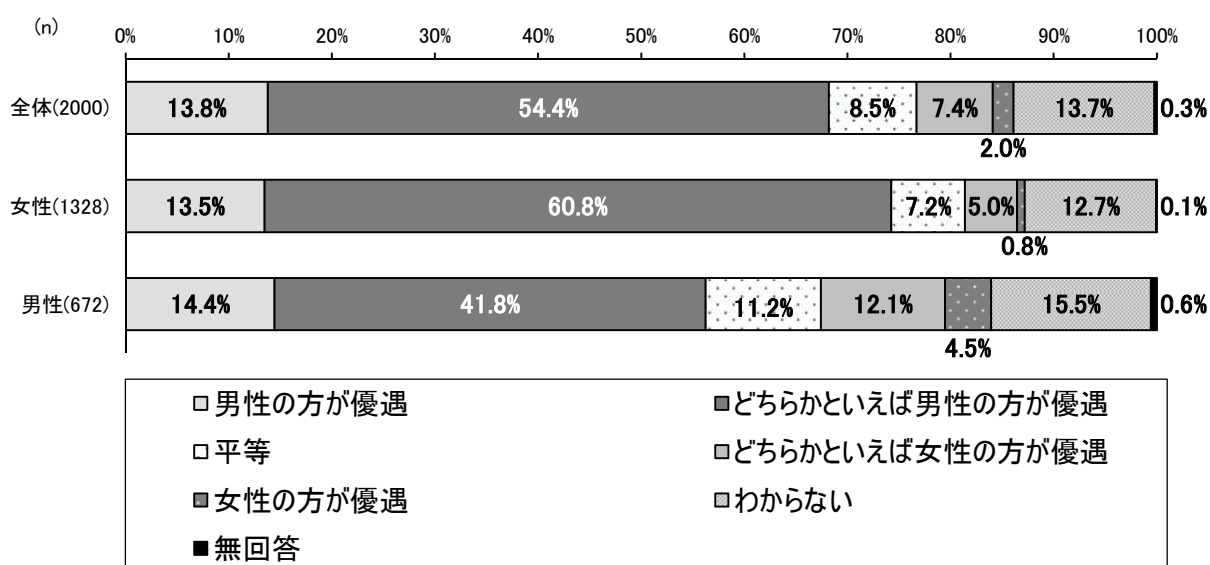
問4 あなたは、政治・経済・地域などの各分野で女性のリーダーを増やすときに障害となるものは何だと思いますか。＜複数回答＞



男女の地位の平等感

- 社会全体で「男性優遇」とする回答の割合は高い。特に女性の回答が高い（女性の74.3%が男性優遇と回答しているのに対し、男性は56.2%）。
- 「平等」と回答した割合は男性が女性を若干上回るものの、その割合は11.2%にしかすぎず、男女ともに「平等」と回答した割合は非常に低い。
- 「男性優遇」を指摘する割合は、内閣府による世論調査とほぼ同様に、名古屋市調査より若干下回っている。

問5 あなたは、社会全体で、男女の地位は平等になっていると思いますか。

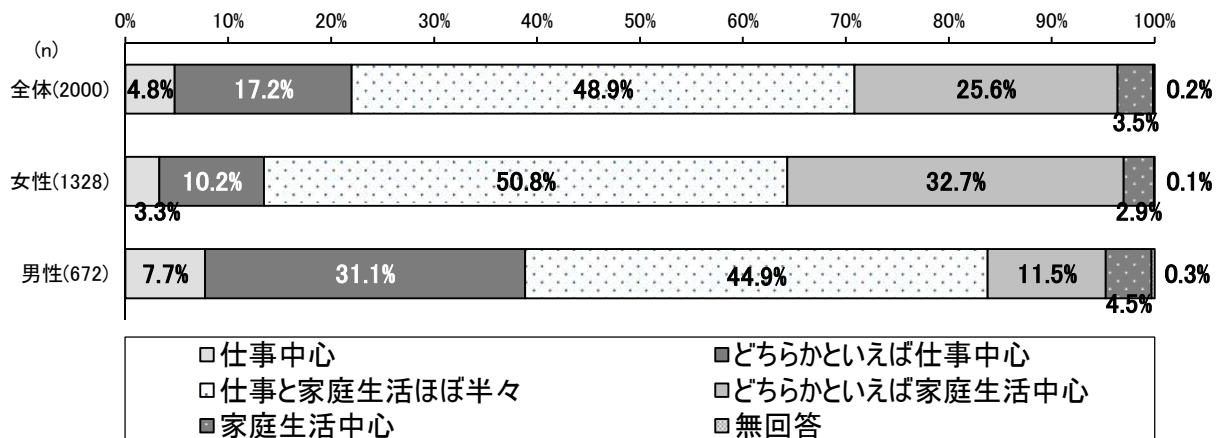


2 人生キャリアについて

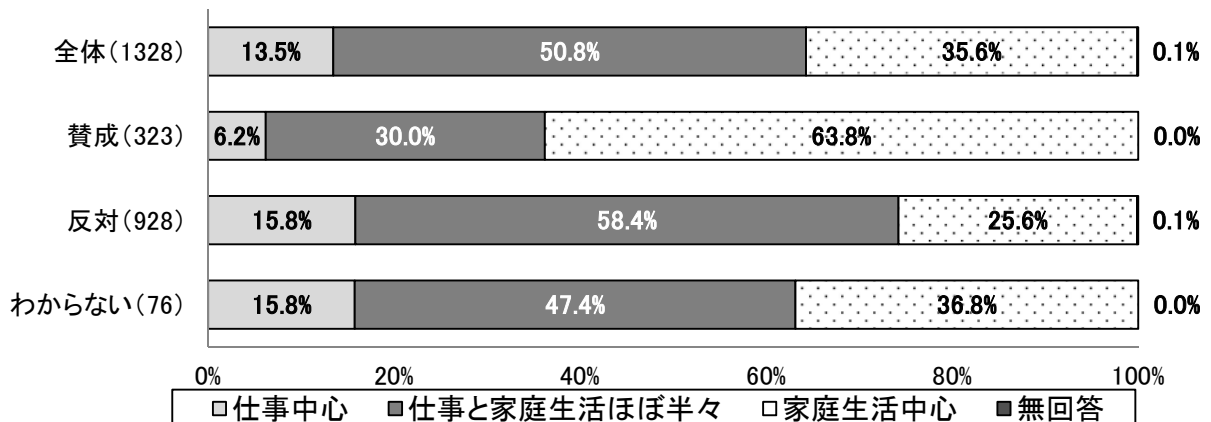
仕事と生活の理想

- 男女ともおよそ半数が「仕事と家庭生活ほぼ半々」を理想としている。次いで女性では「どちらかといえば家庭生活中心」、男性では「どちらかといえば仕事中心」という回答が多い。
- 性別役割分担意識との関連を見ると、男性では有意な差は見られないが、女性では問1の「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方に「賛成」の人に「家庭生活中心」を理想とする回答が多く（63.8%）、「反対」「わからない」人に「仕事と家庭生活ほぼ半々」を理想とする回答が多い（順に 58.4%、47.4%）。女性の場合、自分自身が持つ性別役割分担意識が自分の人生キャリアの展望に影響を及ぼしていると言える。
- 男性の場合は、親の家庭内での役割分担の状況や学年との関連が見られる。「父親が家事を担っていた」男性のほうが「家庭生活中心」を理想としており、学年が上がるにつれ「仕事中心」を理想とする回答が増えている。

問6 将来、仕事と家庭生活のどちらに重点を置くかについて、あなたの理想についてもっともあてはまると思う番号に○をつけてください。

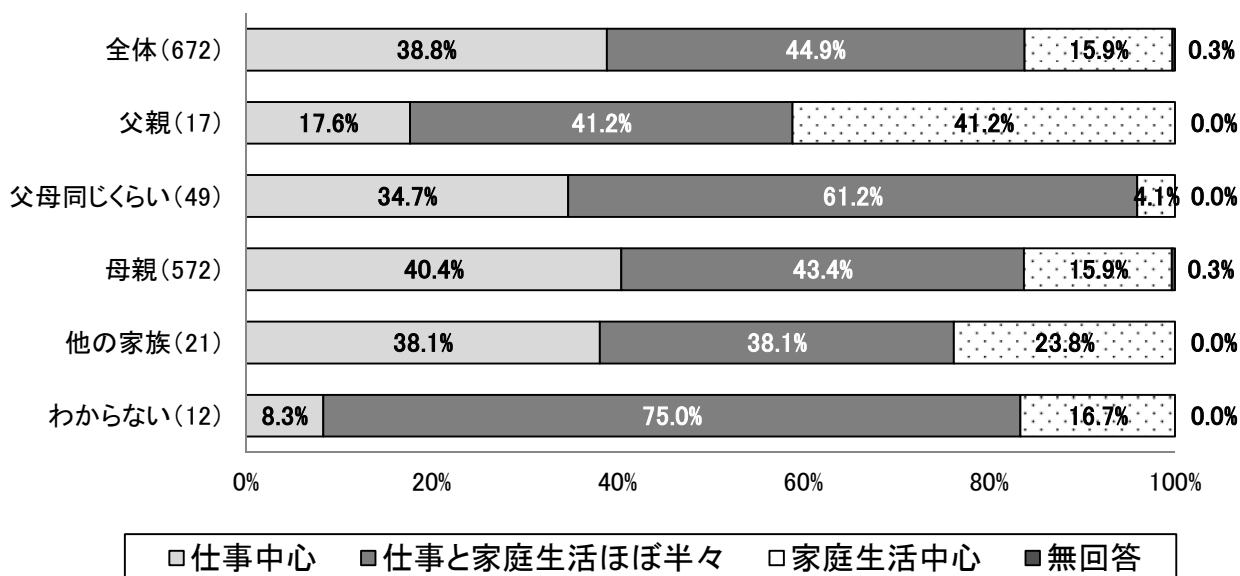


●問1（性別役割分担意識）とのクロス集計（女性）



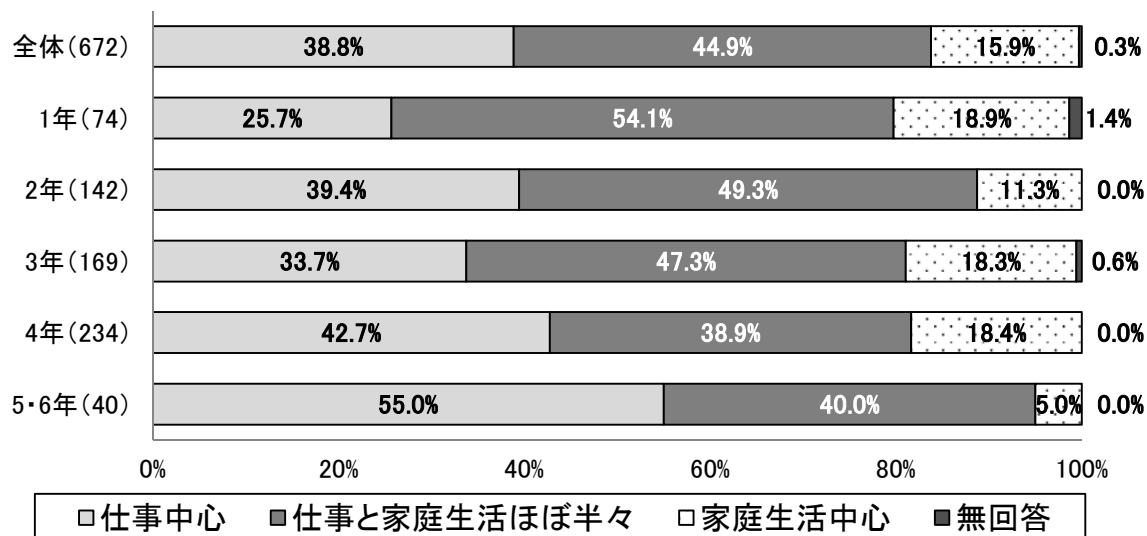
問1：「賛成」と「どちらかといえば賛成」→ 賛成
「反対」と「どちらかといえば反対」→ 反対
問6：「仕事中心」と「どちらかといえば仕事中心」→ 仕事中心
「家庭生活中心」と「どちらかといえば家庭生活中心」→ 家庭生活中心

●問 11（親の家庭内での役割分担）とのクロス集計（男性）



問 11：「父親が担っていた」と「どちらかといえば父親が担っていた」 → 父親
「母親が担っていた」と「どちらかといえば母親が担っていた」 → 母親
問 6：「仕事中心」と「どちらかといえば仕事中心」 → 仕事中心
「家庭生活中心」と「どちらかといえば家庭生活中心」 → 家庭生活中心

●F2（学年）とのクロス集計（男性）



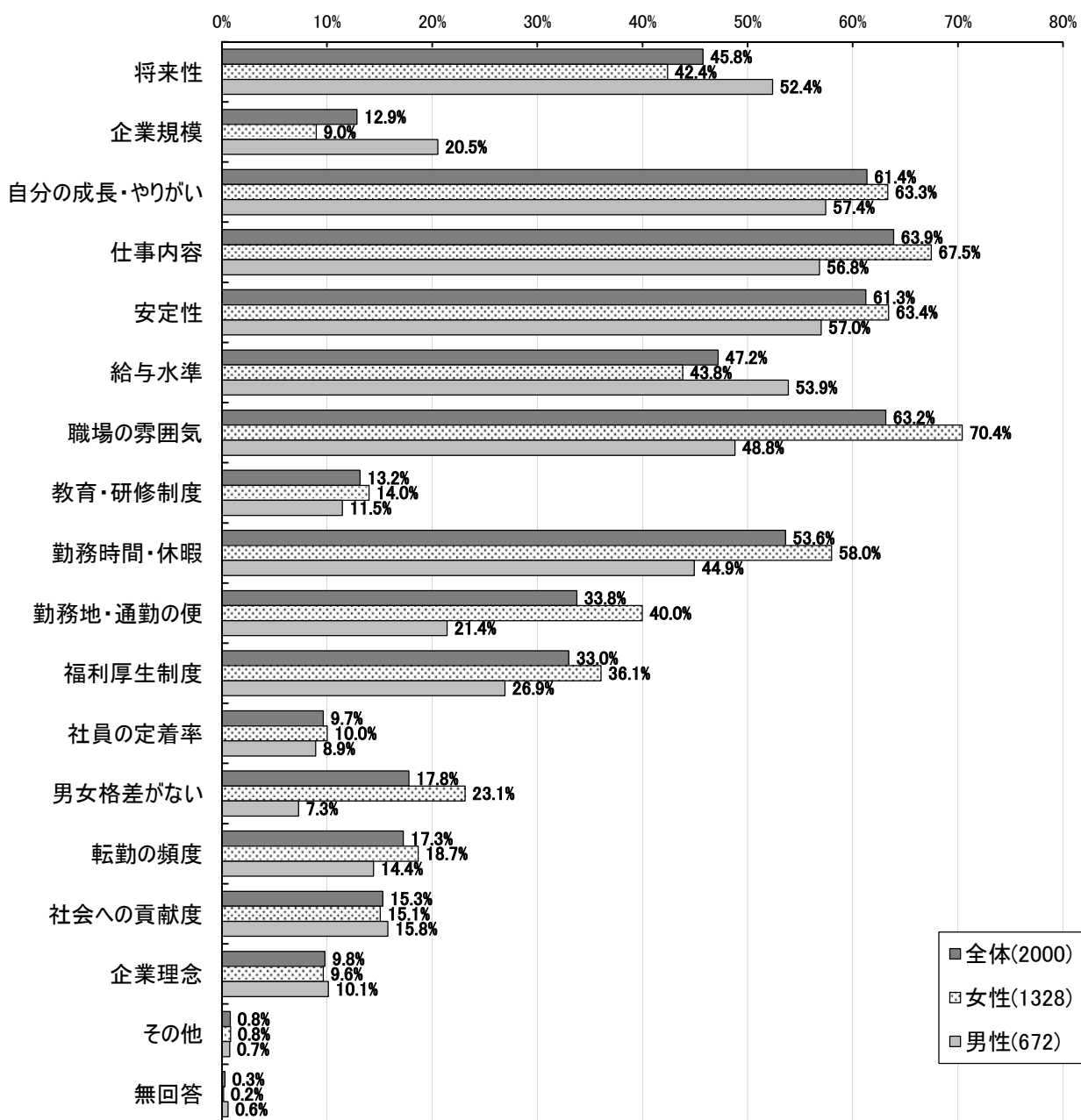
問 6：「仕事中心」と「どちらかといえば仕事中心」 → 仕事中心
「家庭生活中心」と「どちらかといえば家庭生活中心」 → 家庭生活中心

就職先選択に際して重視する項目

- 男女とも、「仕事内容」、「安定性」、「自分の成長・やりがい」が就職先選択の際に重視する上位5項目に挙げられている。その他に女性では「職場の雰囲気」、「勤務時間・休暇」が、男性では「給与水準」、「将来性」が上位5項目に挙げられている。
- 選択数の平均は女性で5.85個、男性で5.09個であり、女性の方が就職先選択に際して多くの項目を重視している。
- 仕事と生活の理想との関連を見ると、特に女性では「仕事生活中心」を理想とする人に比べ「家庭生活中心」を理想としている人ほど、就職先選択に際して重視する項目が多い（「仕事生活中心」平均5.35個、「家庭生活中心」平均6.00個）。

問7 あなたは就職先を選ぶときに次のうちどのようなことを重視しますか。

<複数回答>



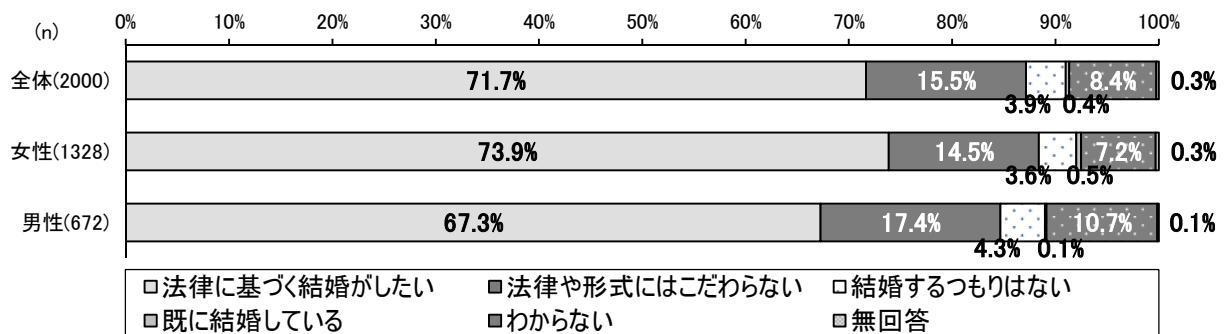
3 結婚や家族について

結婚に対する意識

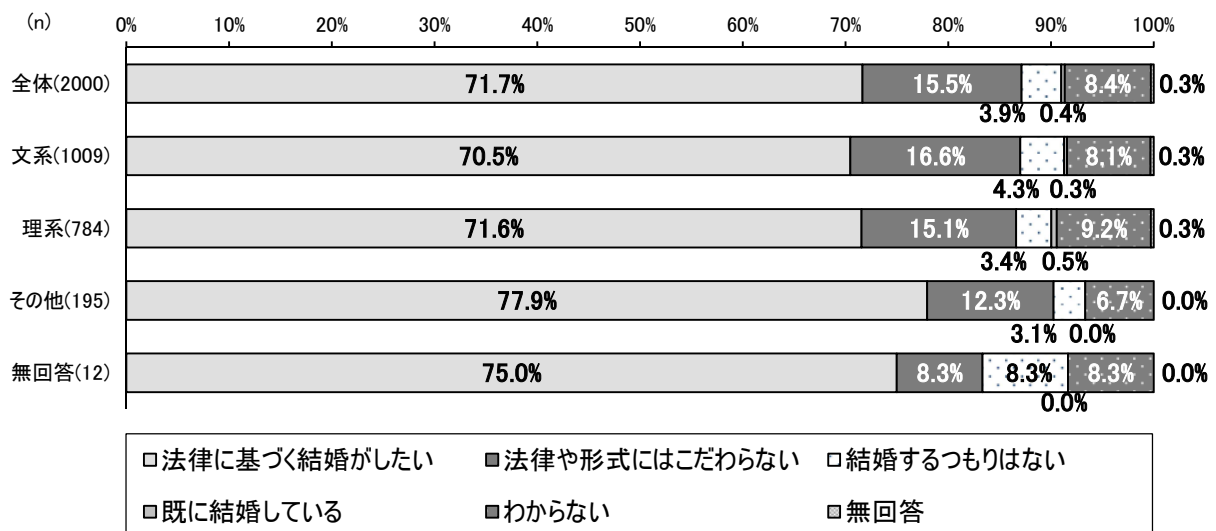
- 全体の9割弱が結婚したいと回答。女性の回答割合が男性を若干上回っている。反対に、「結婚するつもりはない」の割合はごくわずかで、ほとんどの大学生が結婚を希望している。
- 女性の73.9%は「法律婚」を希望しているが、男性は67.3%とその割合が少し低くなる。男性は「法律や形式にはこだわらない」とする割合が女性よりも若干上回る。
- 文系、理系での回答割合に大きな違いは見られなかった。
- 第14回出生動向基本調査（平成22年、国立社会保障・人口問題研究所）でも、結婚する意思をもつ未婚者は9割弱で推移していることから、大学生の意識とほぼ同様である。

問8 結婚についてどのように思いますか。もっともあてはまると思う番号に○をつけてください。

●性別



●学部別

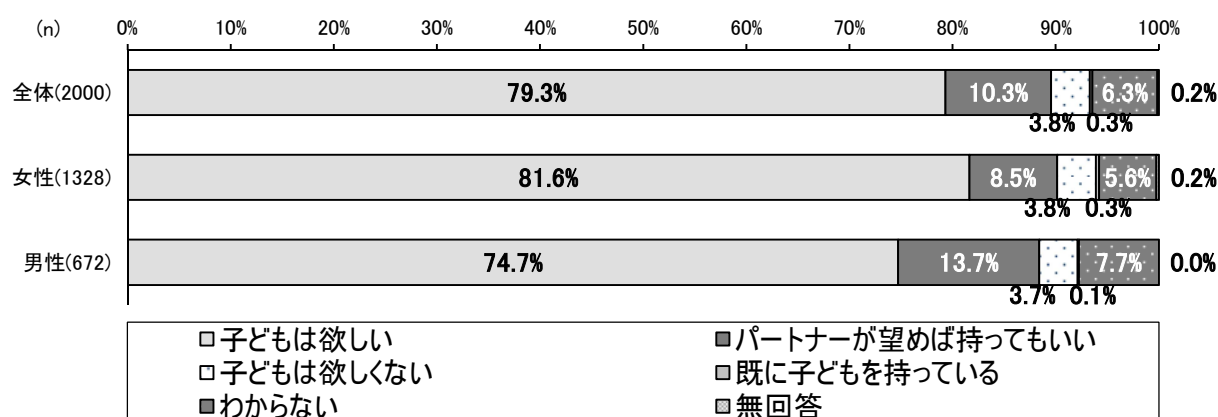


将来子どもを持つことへの意識

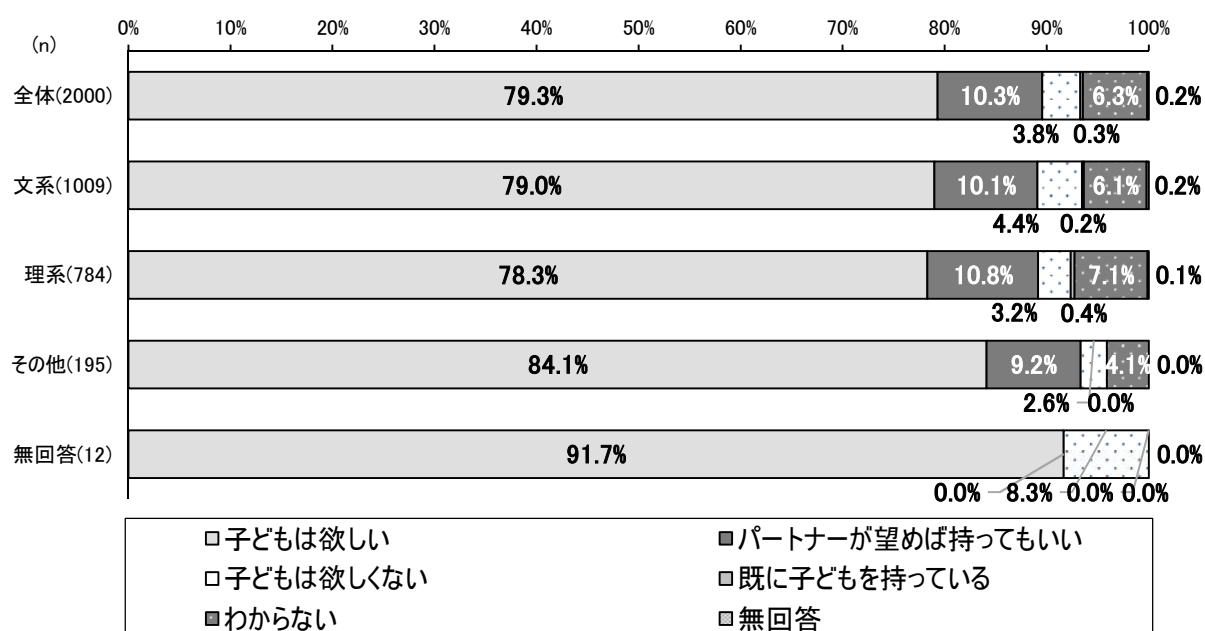
- 全体の8割が「子どもは欲しい」と回答。女性の回答割合が男性を若干上回っている。反対に、「子どもが欲しくない」の割合はごくわずかで、ほとんどの大学生が子どもを持つことを希望している。
- 文系、理系での回答割合に大きな違いは見られなかった。

問9 将来、子どもを欲しいと思いますか。もっともあてはまると思う番号に○をつけてください。

●性別



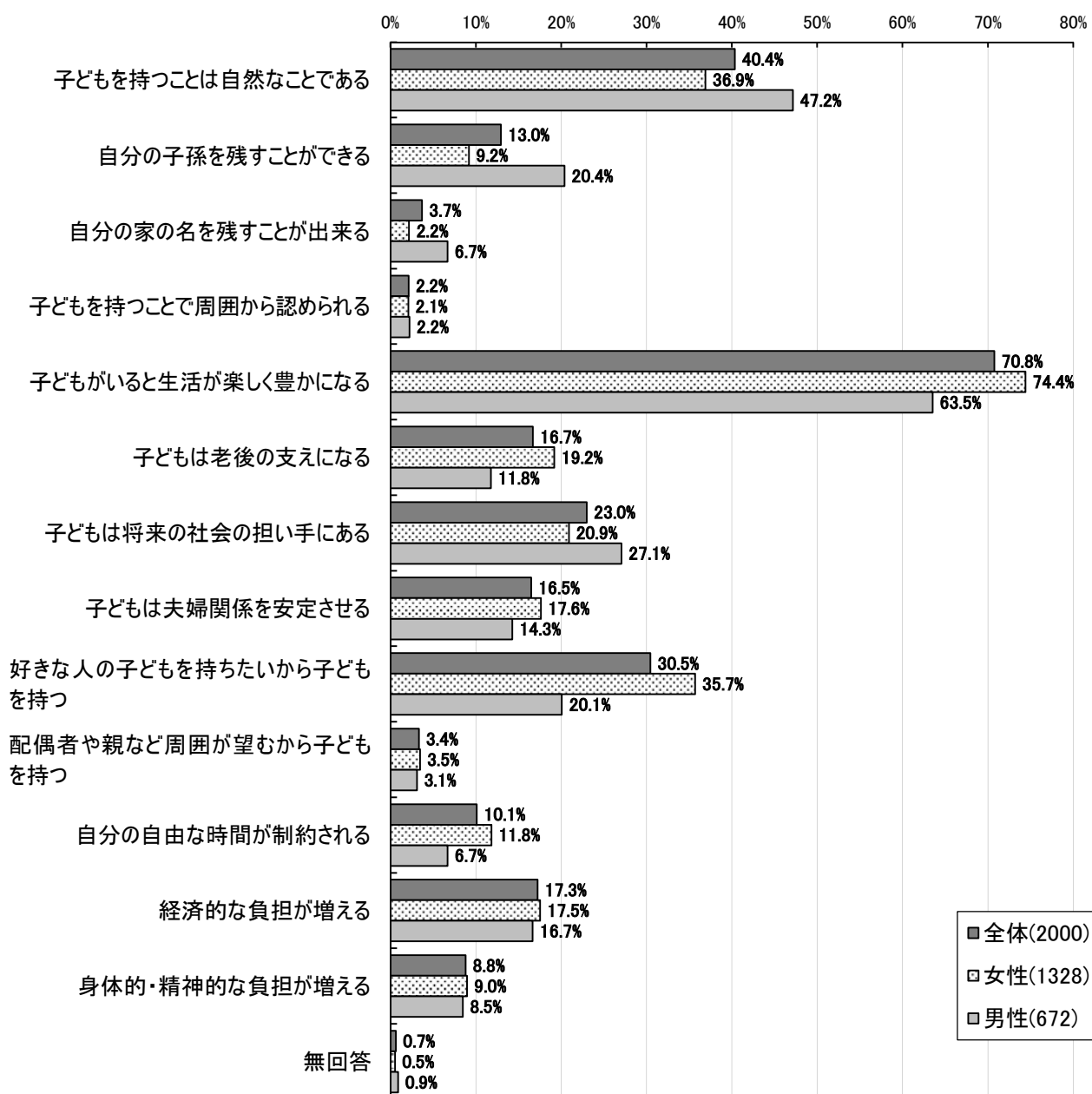
●学部別



子どもを持つことに対する意識

- 全体の7割が「子どもがいると生活が楽しく豊かになる」と回答し、子どもをもつことにポジティブなイメージをもつ大学生の割合が高いと言える。
- 第14回出生動向基本調査（平成22年、国立社会保障・人口問題研究所）で妻が理想の子ども数を持たない理由として、「子育てにお金がかかる」と答えた割合が最も多く、年齢が若くなるにつれてその傾向は高くなる。30歳未満の妻の8割が「経済的負担により理想の子ども数が持てない」と回答している。大学生では経済的負担をあげた割合は2割弱に留まった。本調査の大学生のほとんどは未婚であることから、若い世代でも未婚・既婚により、子どもを持つことに対する意識の乖離が見られる。

問10 子どもを持つことについてどう思いますか。あてはまると思う番号に○をつけてください。＜3つまで選択＞

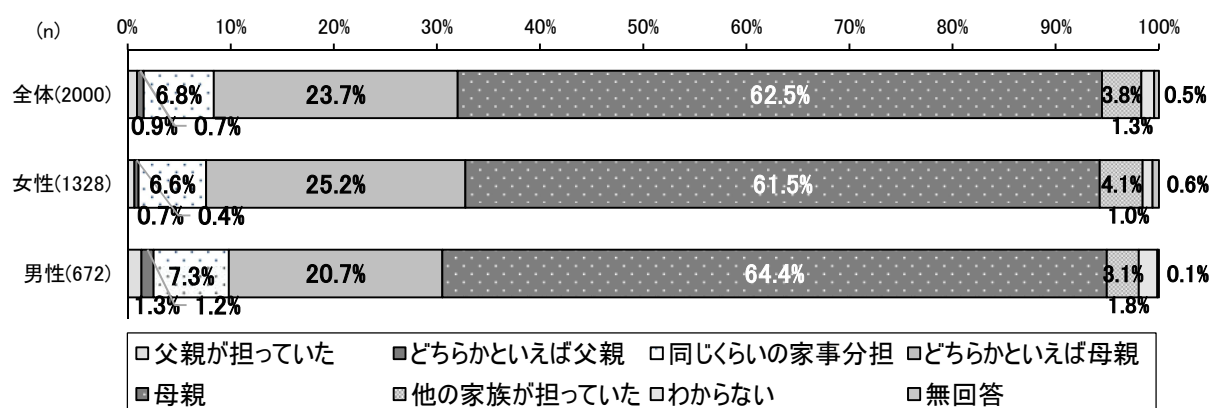


親の家庭内での役割分担

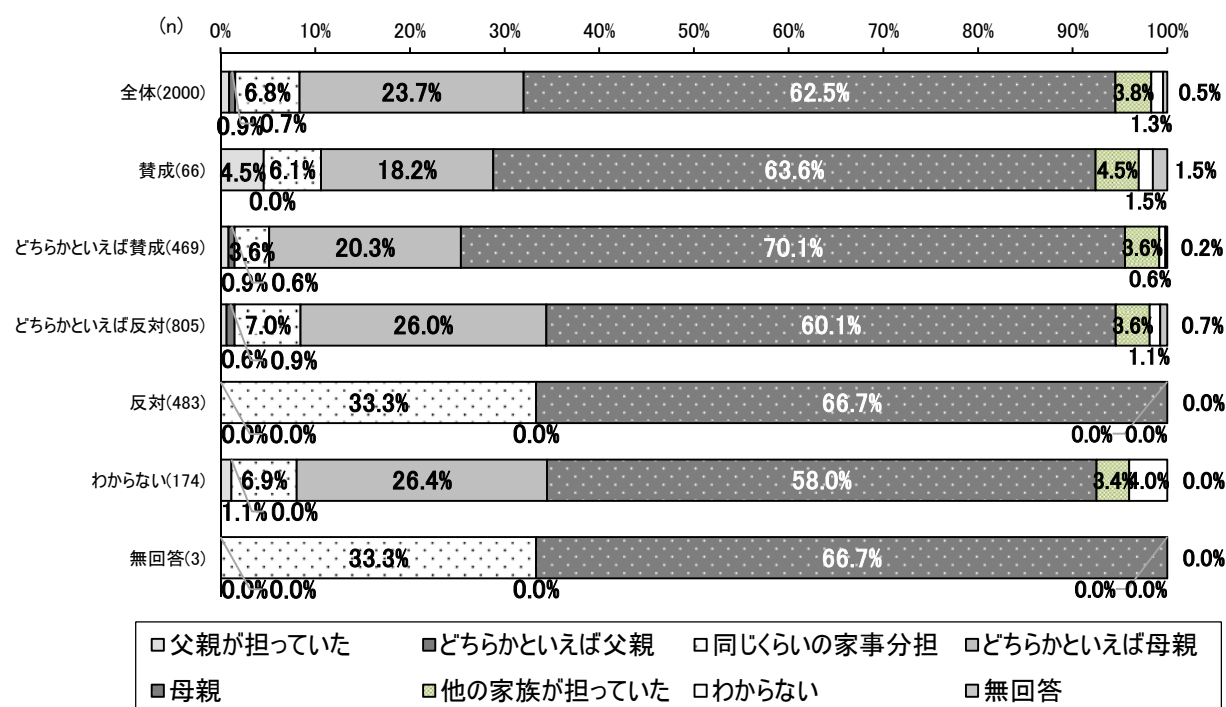
- 「どちらかといえば母親」および「母親」の回答を合わせて約 9 割弱になり、大学生の親の家庭内での仕事は、ほぼ母親によって担われていることがわかる。
- 父親と母親が同程度に家事分担をしていた大学生は 1 割弱であった。
- 問 1 の性別役割分担意識とクロスさせてみると、性別役割分担に反対とした大学生において、両親が同程度に家事分担の割合が若干高かった。

問 1 1 あなたの親の家庭内（家事、育児、介護など）での役割分担についておたずねします。もっともあてはまると思う番号に○をつけてください。

●性別



●問 1（性別役割分担意識）とのクロス集計



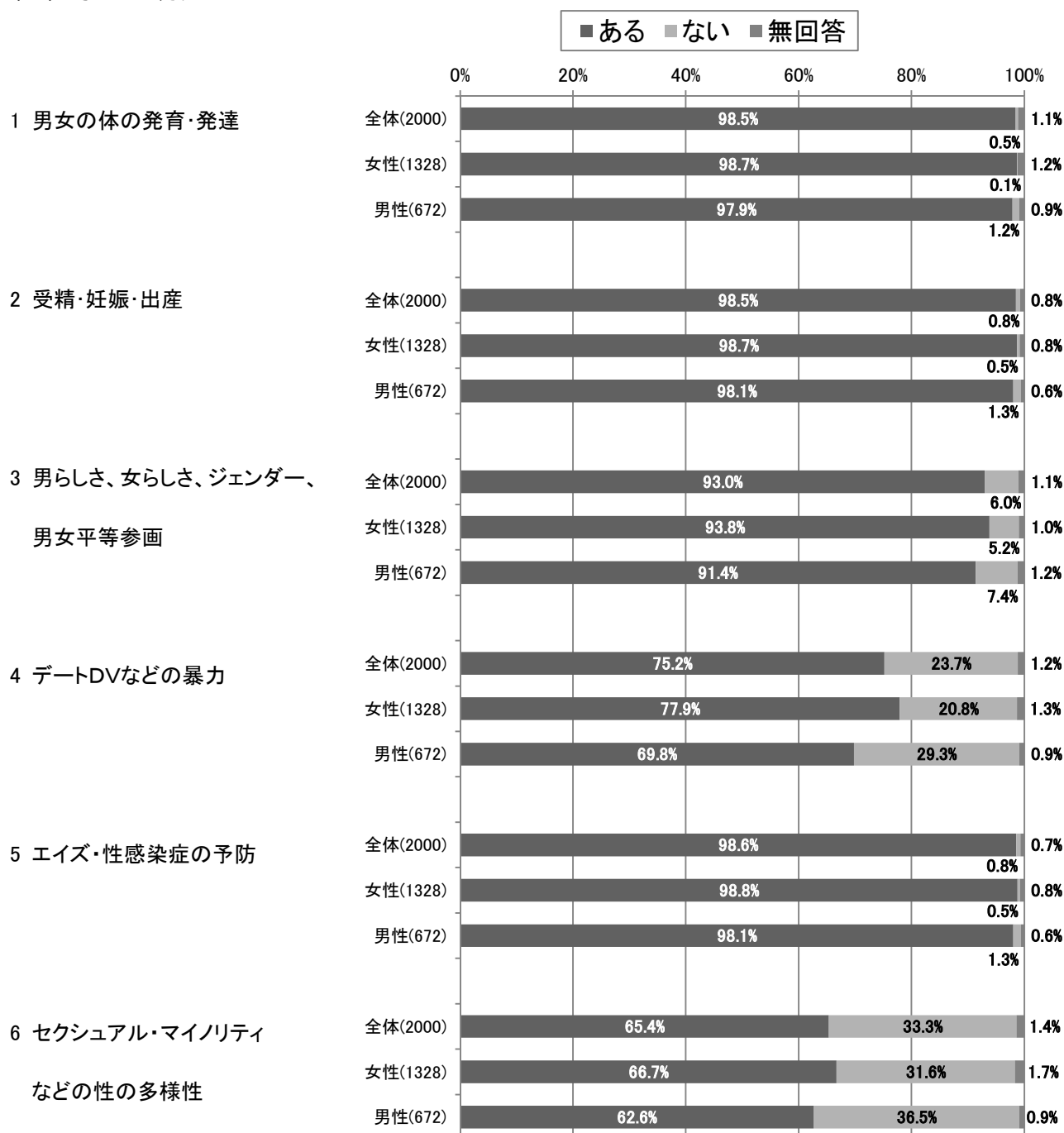
4 男女平等に関する教育について

男女平等教育の学習経験と時期

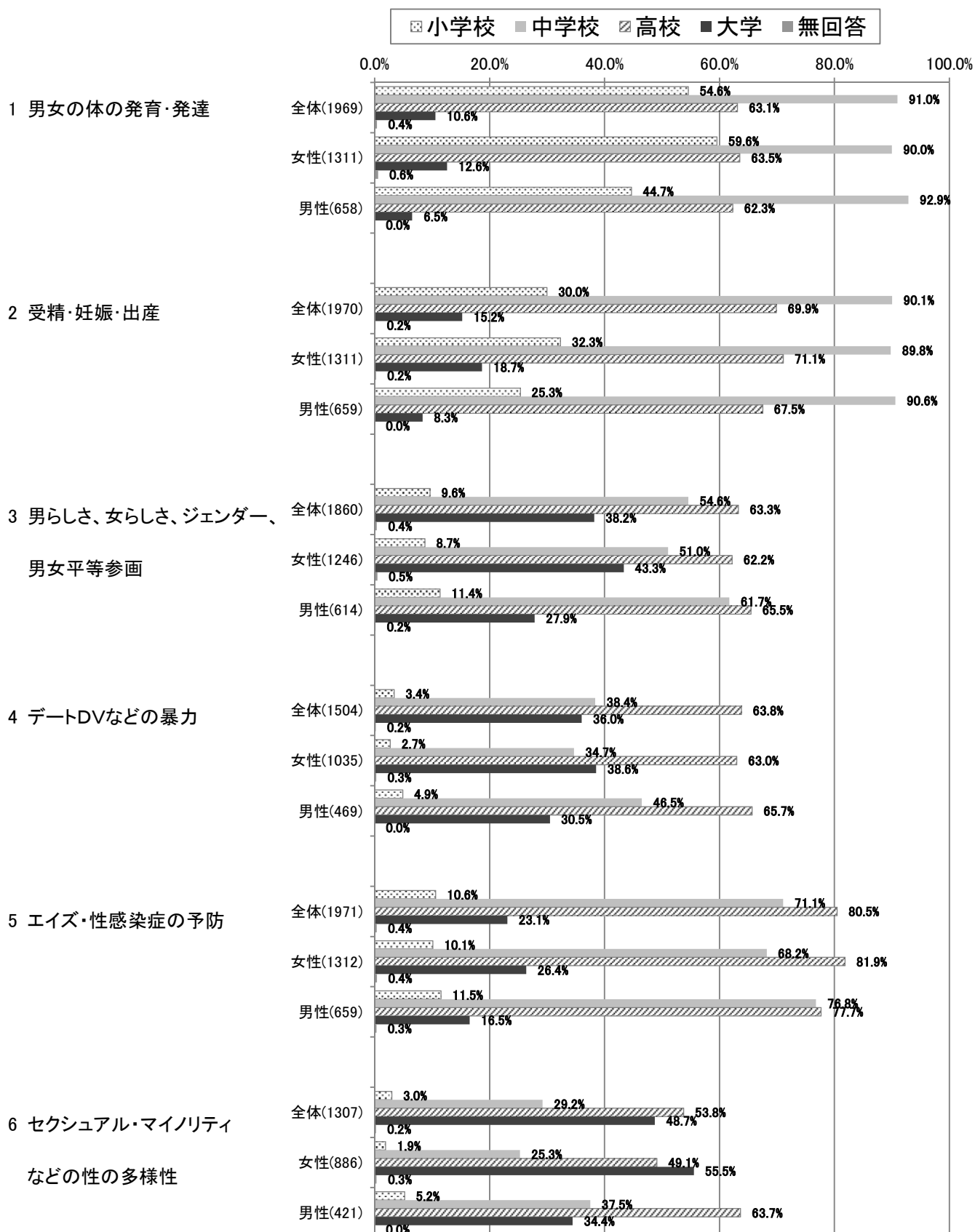
- 男女の体に関するテーマについてはほとんどの者が学習経験を持つが、「デート DV などの暴力 (75.2%)」や「セクシュアル・マイノリティなどの性の多様性 (65.4%)」に関しては、約7割にとどまっており、女性の方が学習経験の割合が高かった。
- 「男女の体の発育・発達」「受精・妊娠・出産」については、主として小学校・中学校の段階で、「エイズ・性感染症などの予防」については主として中学校・高校の段階で学びを経験する者の割合が高かった。
- 小学校段階において、「ジェンダー・男女平等参画」に関する学びは9.6%、「セクシュアル・マイノリティなどの性の多様性」については3.0%と学習経験が低い。
- 大学における学習経験に関して、より身近なテーマとなるジェンダー・男女平等参画、デート DV、性の多様性などの学習経験は半数以下であった。
- 小・中・高の学習経験において男女差はほとんど見られないが、大学においては、学部専攻による学修内容の影響があると思われるが、女性の方の学習経験の回答割合が高かった。

問12 次の1から6のテーマについて、あなたは学んだことがありますか。また、学んだことがある場合、その「学んだ時期」についてあてはまると思う番号に○をつけてください。＜複数回答＞

(1) 学びの有無



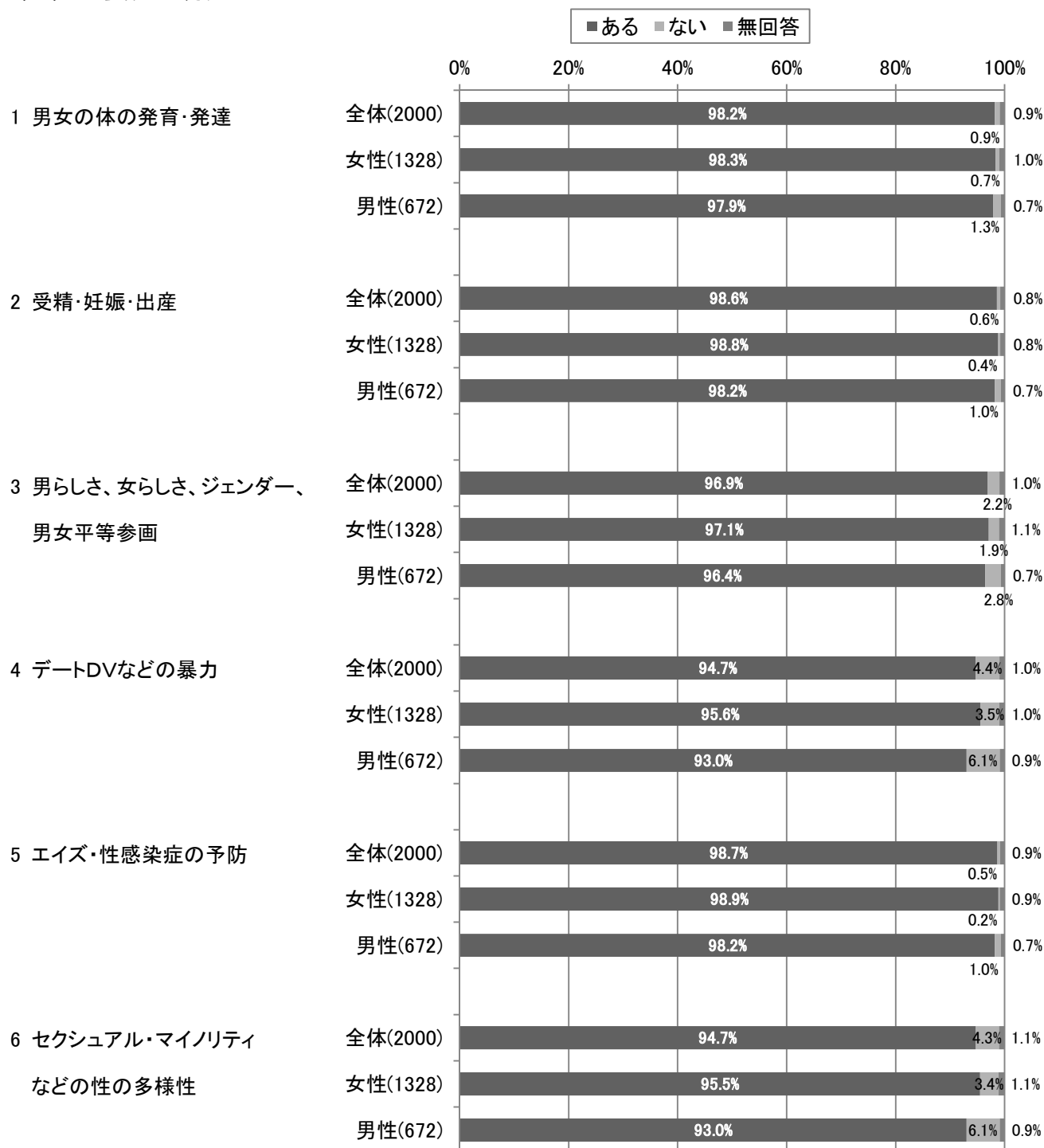
(2) 学んだ時期



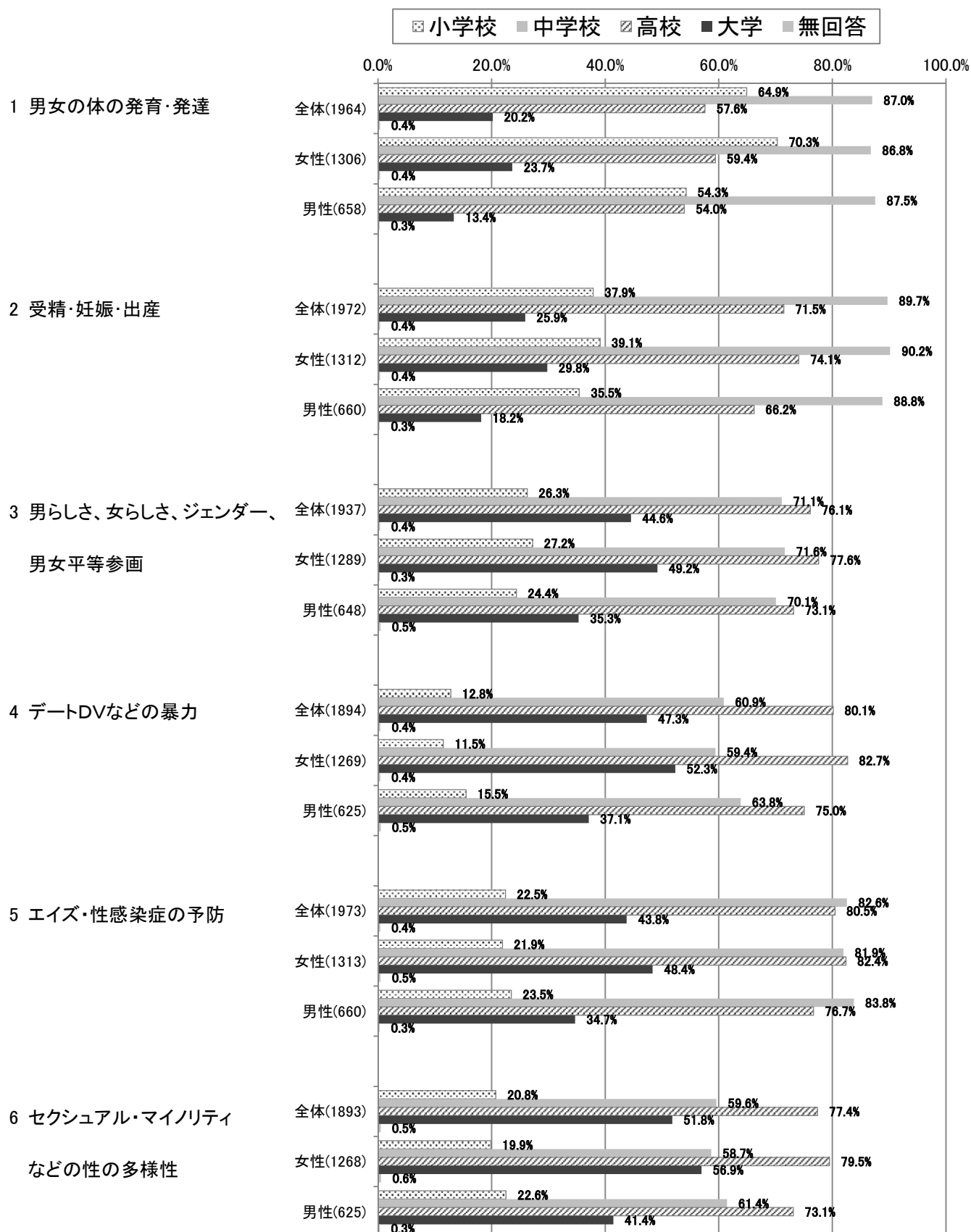
- すべての項目において「学ぶ必要性はある」の回答が9割以上であった。
- 問12の「学んだ時期」と問13の学びに「適する時期」について比較すると、「男女の体の発育・発達」と「受精・妊娠・出産」の「学習経験」と「学びに適した時期」の回答割合はほぼ同じであった。また、「エイズ・性感染症の予防」については、中学・高校段階での「学習経験」と「学びに適した時期」の割合はほぼ同じであったが、大学では(23.1%→43.8%)差が見られた。
- 「ジェンダー・男女平等参画」についての「学習経験」と「学びに適した時期」の回答割合を比較すると、小学校(9.6%→26.3%)、中学校(54.6%→71.1%)、高校(63.3%→76.1%)、大学(38.2%→44.6%)という結果となり、「学びに適した時期」として中学校・高校と回答する割合が高かった。
- 「デートDVなどの暴力」についての「学習経験」と「学びに適した時期」の回答割合を比較すると、小学校(3.4%→12.8%)、中学校(38.4%→60.9%)、高校(63.8%→80.1%)、大学(36.0%→47.3%)という結果となり、中学校・高校での「学習経験」の回答割合に比べ、「学びに適した時期」の回答割合が大きく上回った。
- 「セクシュアル・マイノリティなどの性の多様性」については、「学習経験」と「学びに適した時期」の回答割合の差が、小学校段階において(3.0%→20.8%)大きな差が出た。学びに適した時期としては、高校(53.8%→77.4%)、中学校(29.2%→59.6%)、大学(48.7%→51.8%)の順で高かった。自由記述からも、セクシュアル・マイノリティについて早い段階からの教育の必要性和理解の促進を求める意見が複数挙げられた。

問13 次の1から6のテーマについて、学ぶ必要性をおたずねします。また、学ぶ必要性があると思う場合、その「適する時期」についてあてはまると思う番号に○をつけてください。＜複数回答＞

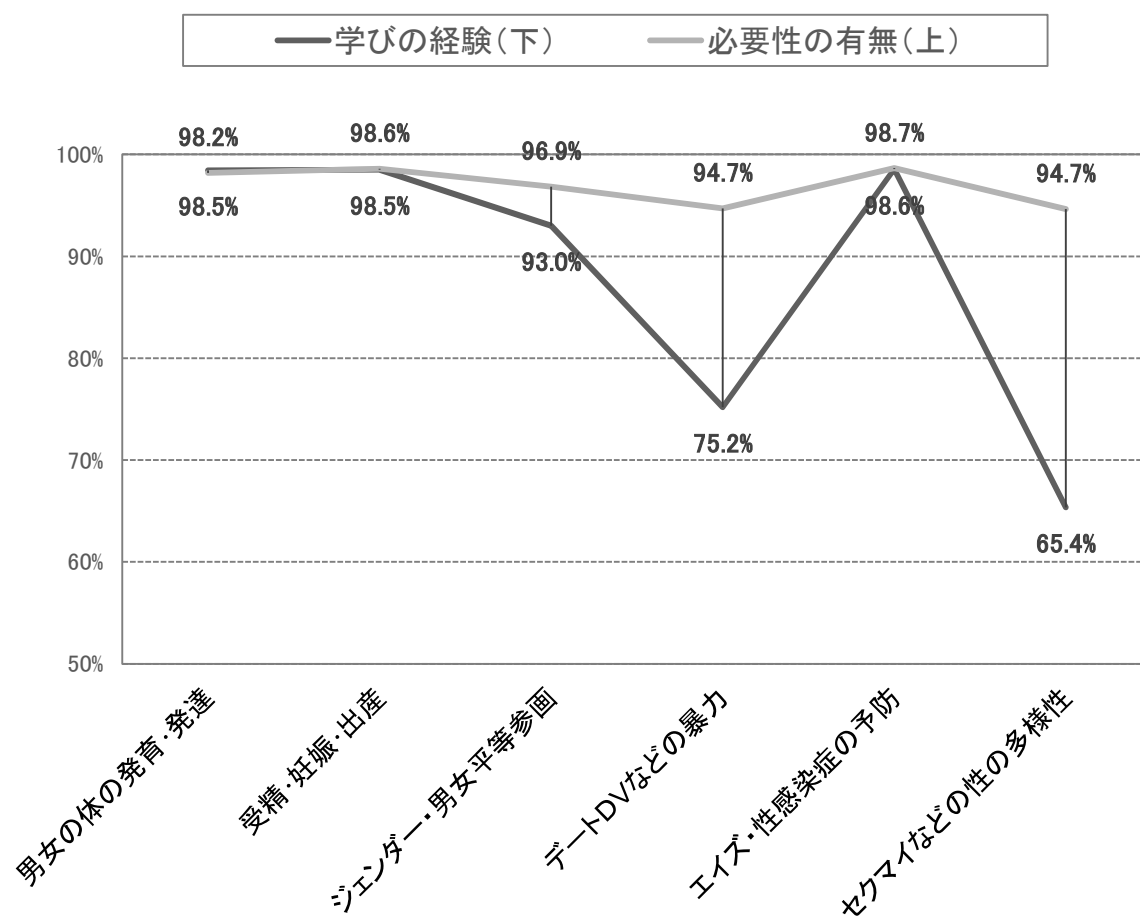
(1) 必要性の有無



(2) 適する時期

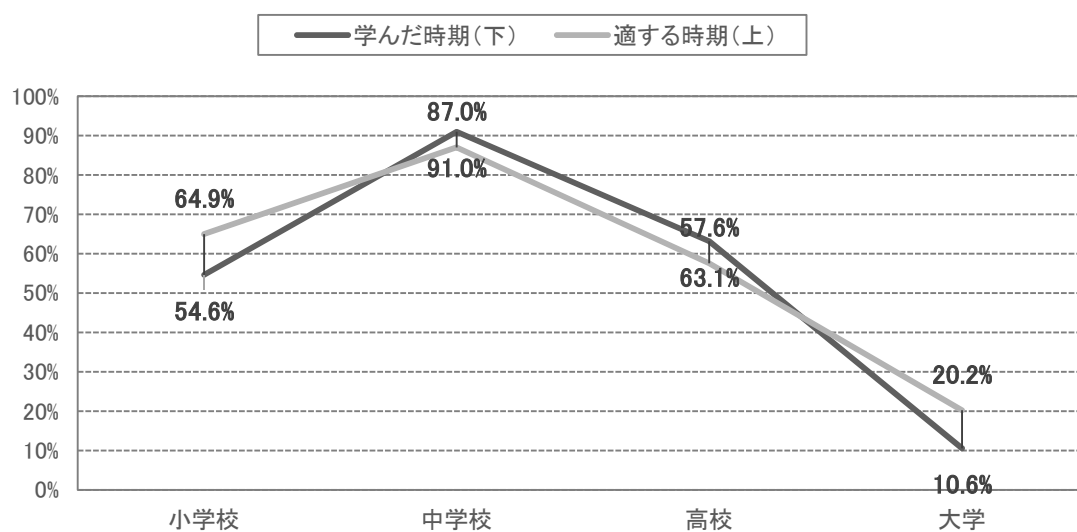


●問 12（学びの有無）と問 13（必要性の有無）のクロス集計

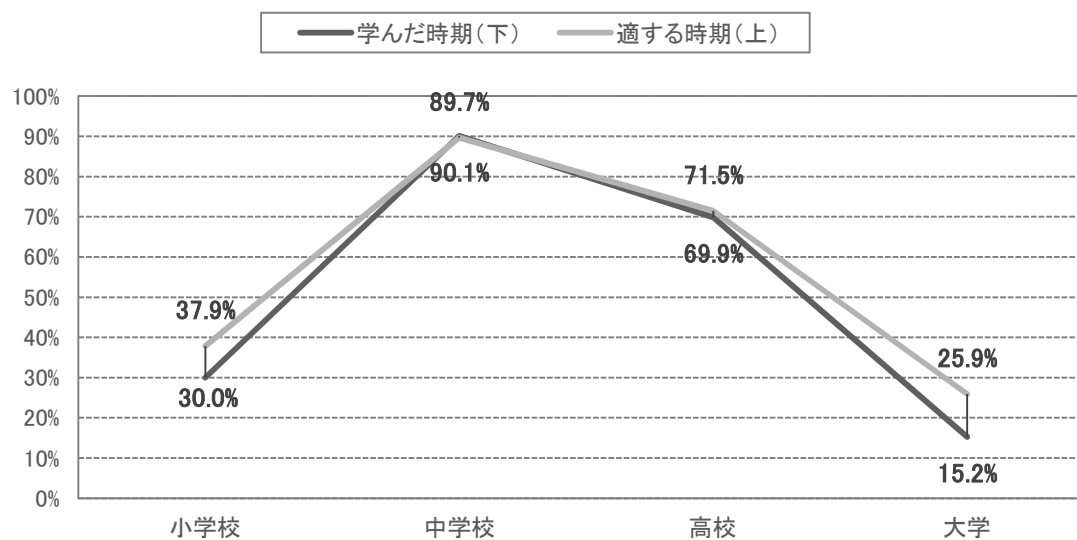


●問 12（学んだ時期）と問 13（適する時期）のクロス集計

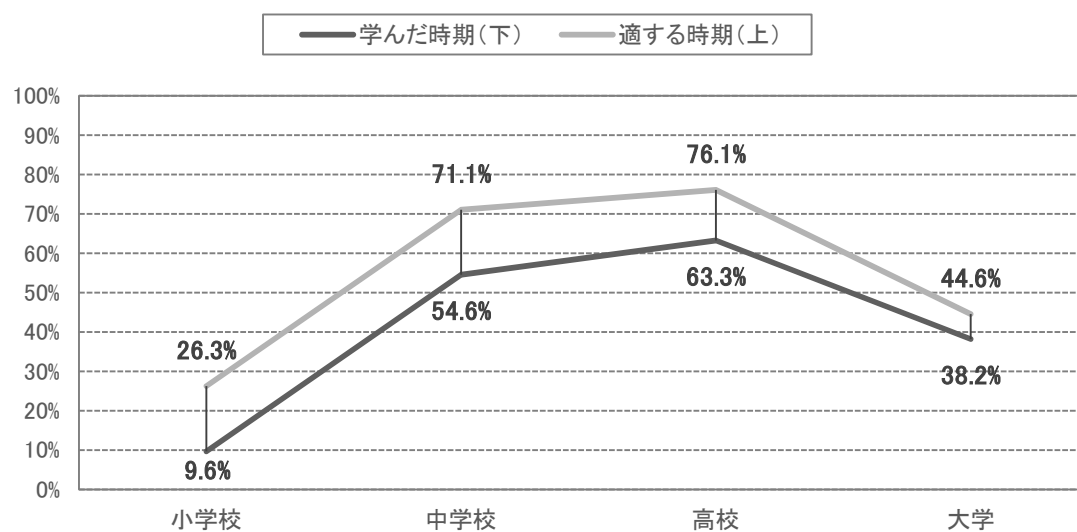
1 男女の体の発育・発達



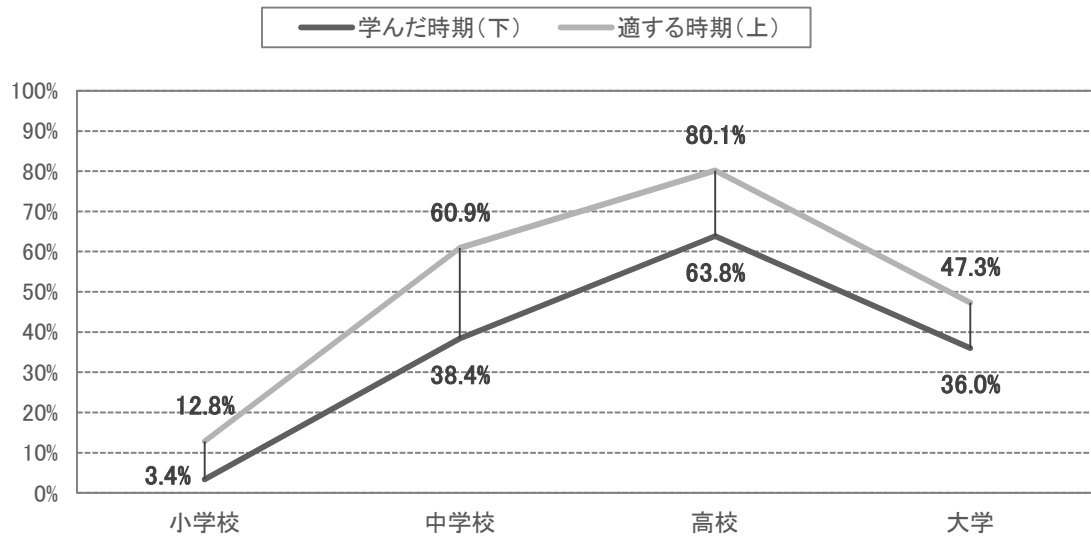
2 受精・妊娠・出産



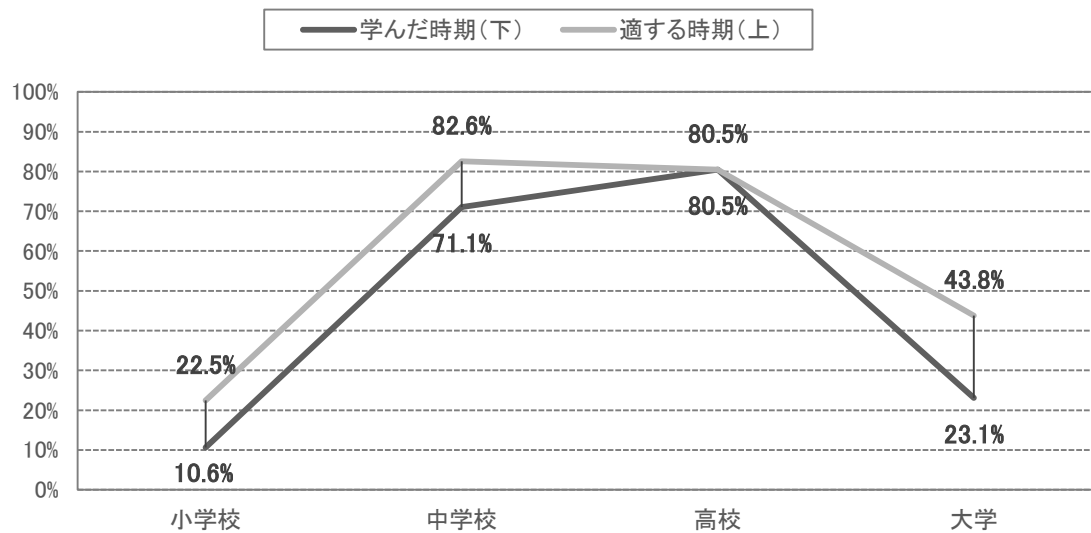
3 男らしさ、女らしさ、ジェンダー、男女平等参画



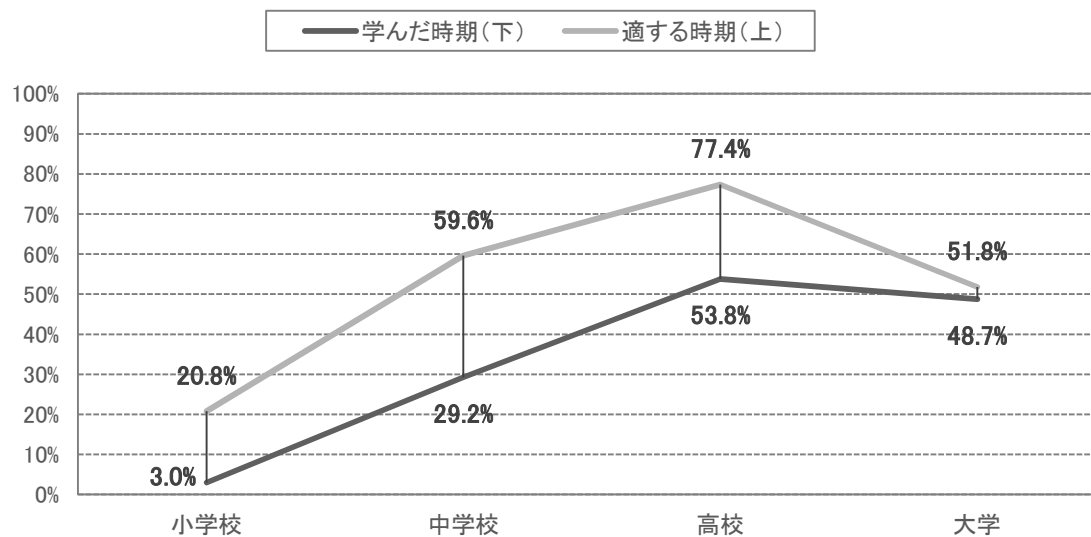
4 デートDVなどの暴力



5 エイズ・性感染症の予防



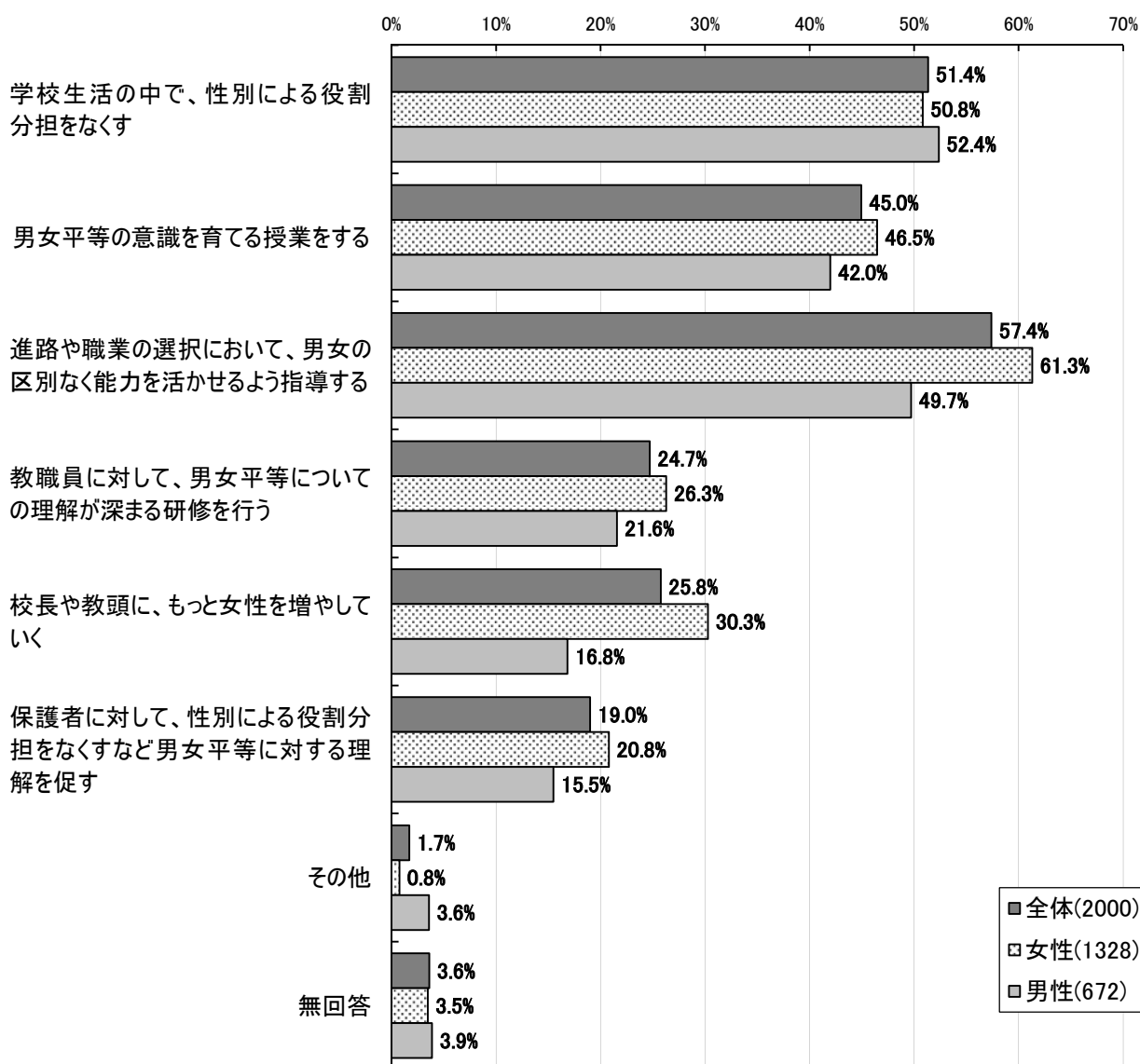
6 セクシュアル・マイノリティなどの性の多様性



学校で必要な男女平等の取組に関する意識

- 男女平等参画を進めるためには、「進路や職業選択において、男女の区別なく能力を活かせるように指導する」(57.4%)、「学校生活の中で、性別による役割分担をなくす」(51.4%)、「男女平等の意識を育てる授業をする」(45.0%)という順で回答割合が高かった。
- 女性では、「進路や職業選択において、男女の区別なく能力を活かせるように指導する」(61.3%)、「学校生活の中で、性別による役割分担をなくす」(50.8%)、「男女平等の意識を育てる授業をする」(46.5%)の順に多かったのに対し、男性では、「学校生活の中で、性別による役割分担をなくす」(52.4%)、「進路や職業選択において、男女の区別なく能力を活かせるように指導する」(49.7%)、「男女平等の意識を育てる授業をする」(42.0%)という順であった。

問14 あなたは、学校における男女平等参画をすすめるために行った方がよいと思う番号に○をつけてください。＜複数回答＞

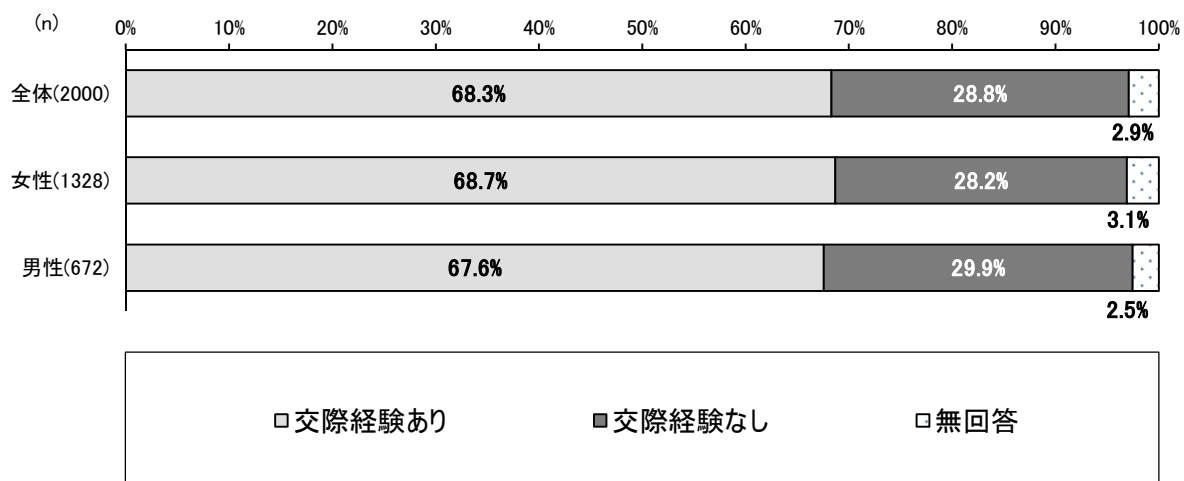


5 人権に関わる問題について

交際経験

- これまでに交際経験のある人は 68.3%、ない人は 28.8%であった。
- 交際経験のある比率を男女別にみると、女性 68.7%、男性 67.6%であり、大きな差は見られない。

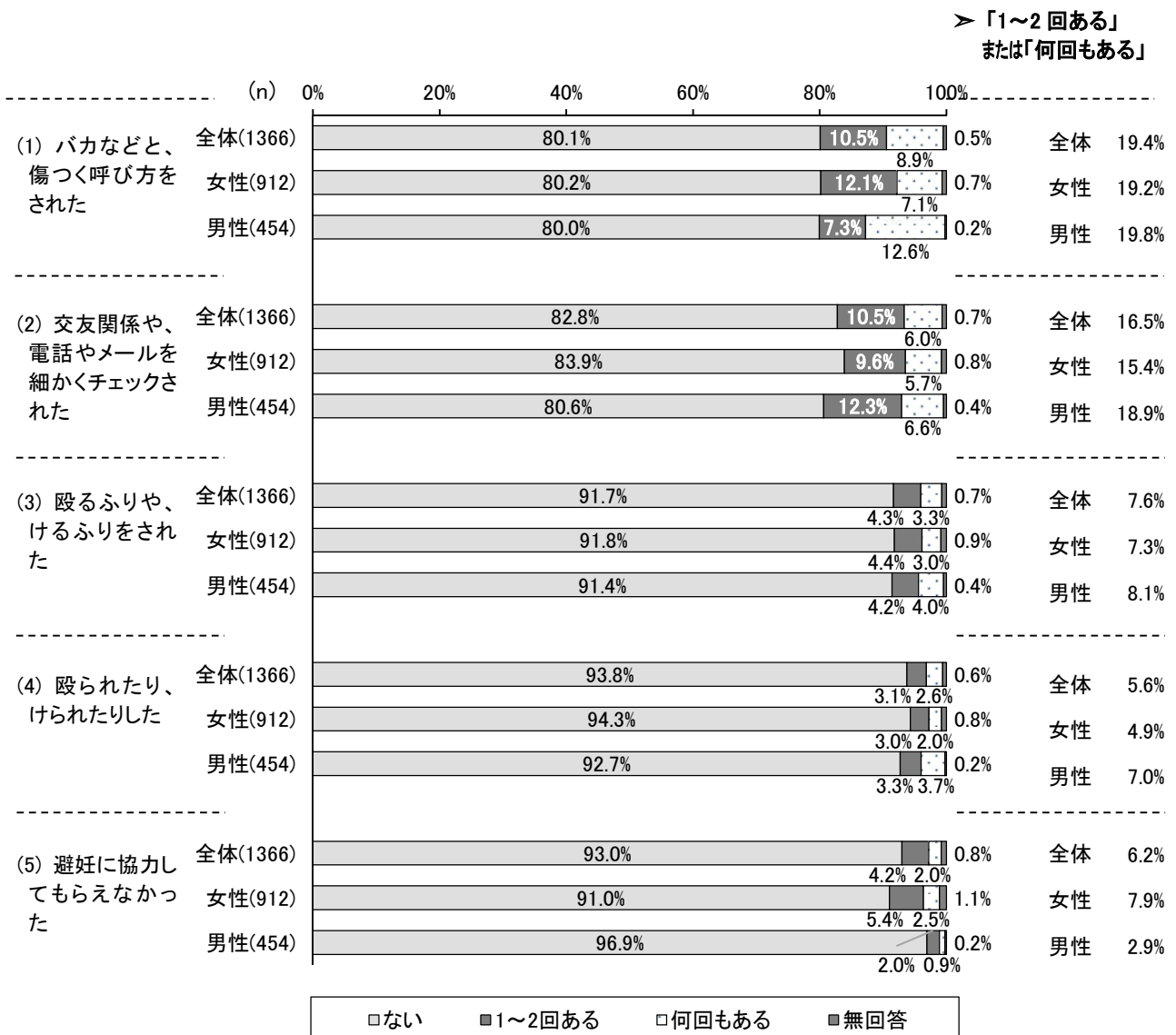
問 1 5 これまで交際経験はありますか。



DVなどの被害経験

- 「バカなどと、傷つく呼び方をされた」(19.4%)、「交友関係や、電話やメールを細かくチェックされた」(16.5%)と、精神的暴力を経験している人が2割弱存在する。
- 基礎調査と比べると、「交友関係や、電話やメールを細かくチェックされた」の回答が多い(基礎調査 9.2%)。若い世代ではメール等を利用する形の精神的暴力が多いことが予想され、暴力が一層見えにくい形で行われている可能性がある。
- 「避妊に協力してもらえなかった」を除く4つの項目では、女性よりも男性の被害の経験率が高いことが特徴的である。「男性は女性よりも強い、強くあるべき」というジェンダーを内面化しているために、若年層においては、女性から男性への暴力が、暴力と認識されないまま行われているのではないかと。

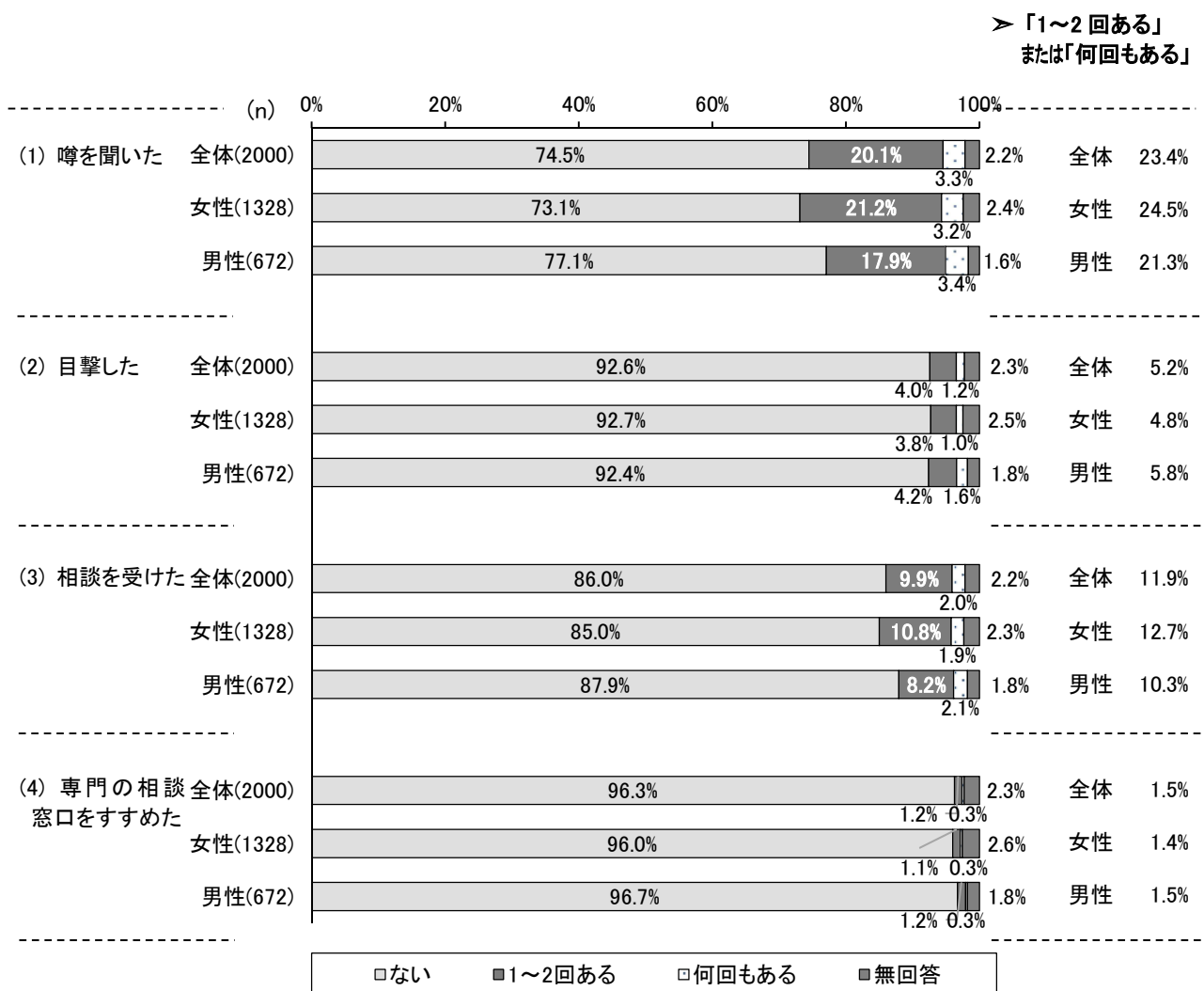
問15-1 あなたは、交際相手などから次のような被害を経験したことがありますか。あてはまると思う番号に○をつけてください。



DVの噂・目撃・相談を受けた経験

- 問 15-1 の結果から、精神的暴力の経験率は2割程度あることがわかっているが、DVについて「相談を受けたことがある」人は1割強、「目撃した」、「専門の相談窓口をすすめた」人は1割以下にとどまっている。暴力が顕在化しにくい状況にあることが読み取れる。
- 基礎調査と比較すると、「噂を聞いた」人の割合は23.4%とやや高く（基礎調査 17.3%）、「専門の相談窓口をすすめた」人の割合が1.5%と低い（基礎調査 4.6%）。

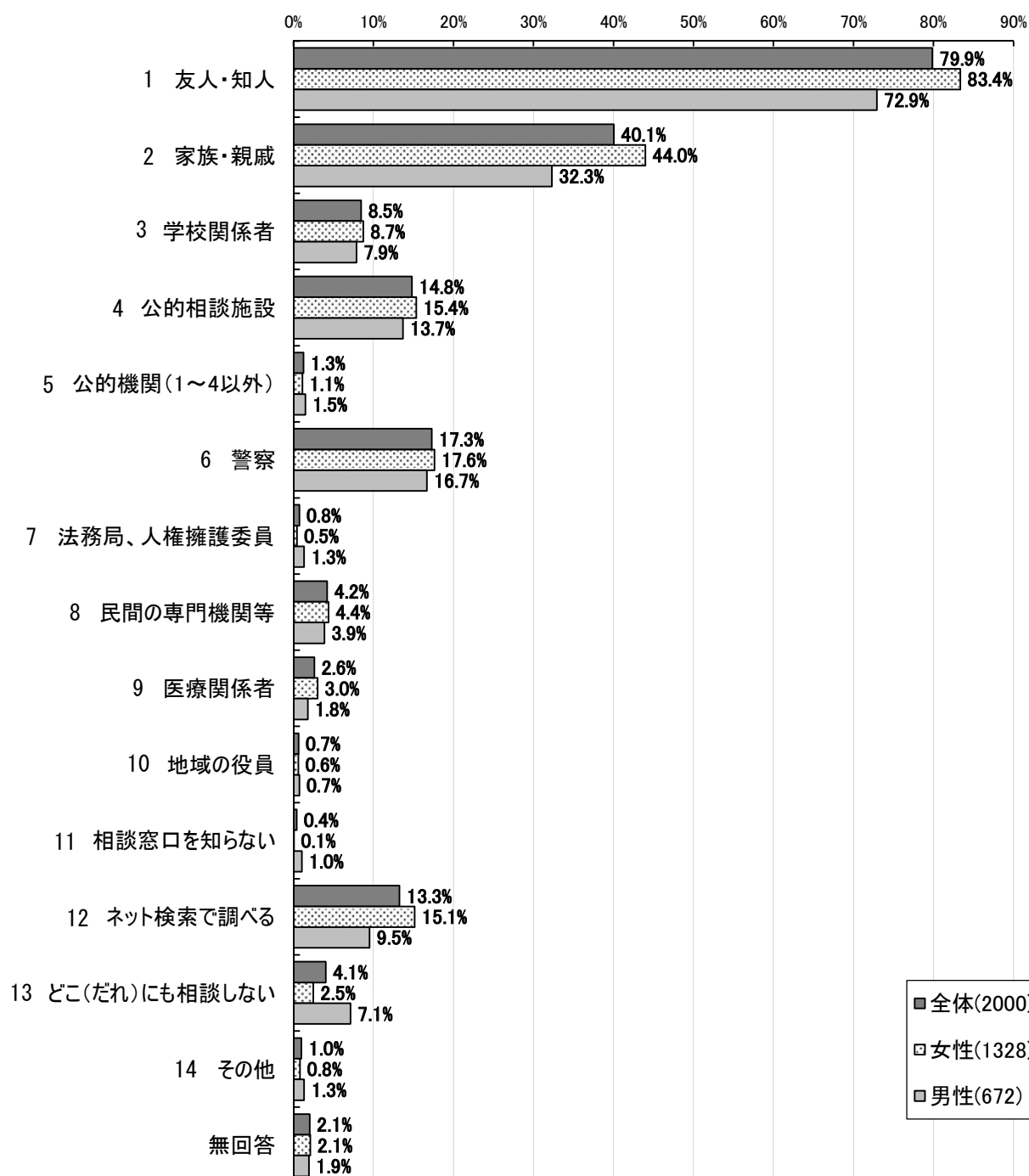
問 16 あなたは、交際相手などからの暴力について、学校やクラブ・サークル、アルバイト先などで目撃したり相談を受けたりしたことがありますか。



DV被害などを受けた場合の相談先

- 相談先として最も多いのは「友人・知人」であり、女性 83.4%、男性 72.9%と突出して高い。
- 基礎調査と比較しても、大学生調査における「友人・知人」の高さは際立っている。基礎調査では「友人・知人」、「家族・親戚」の他に、3割強が「公的相談施設」や「警察」を相談先として挙げているが、大学生調査ではそれぞれ 14.8%、17.3%にとどまる。
- 多くの大学にはハラスメントや暴力に関する相談窓口があるものと思われるが、「学校関係者」を相談先として挙げる回答は 8.5%と少ない。

問 17 もし、あなたが交際相手などからの暴力やセクシュアル・ハラスメントの被害を受けた場合、どこに相談しますか。＜複数回答＞

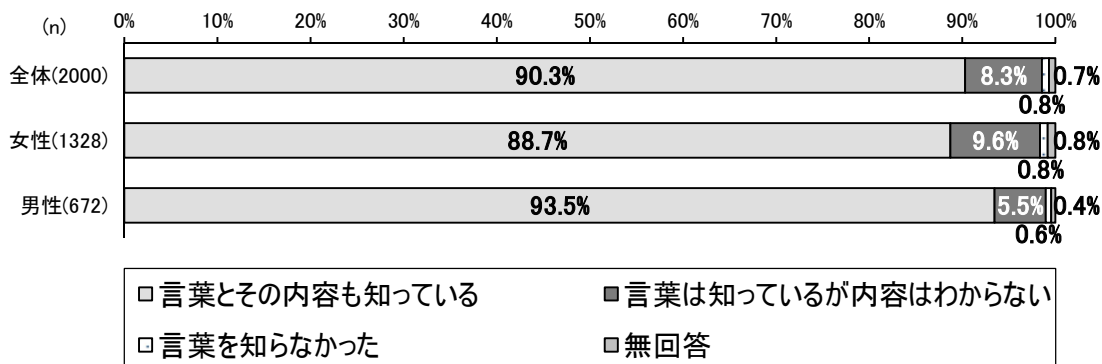


言葉の認知度

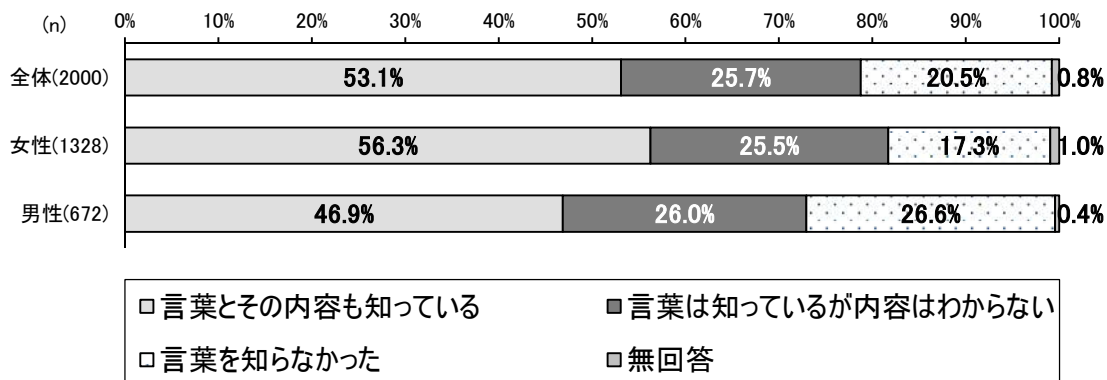
- 全体的に言葉の認知度は高い。「ドメスティック・バイオレンス」、「セクシュアル・ハラスメント」、「ストーカー」は9割以上、「男女共同参画社会」は8割が「言葉とその内容も知っている」。
- 比較的認知度の低い「デートDV」、「セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツ」、「セクシュアル・マイノリティ」について男女平等教育の学習経験との関連を見ると、「男らしさ、女らしさ、ジェンダー、男女平等参画」を学んだことがある人のほうが言葉の認知度が高い。

問18 次のうち、あなたが知っている言葉はどれですか。

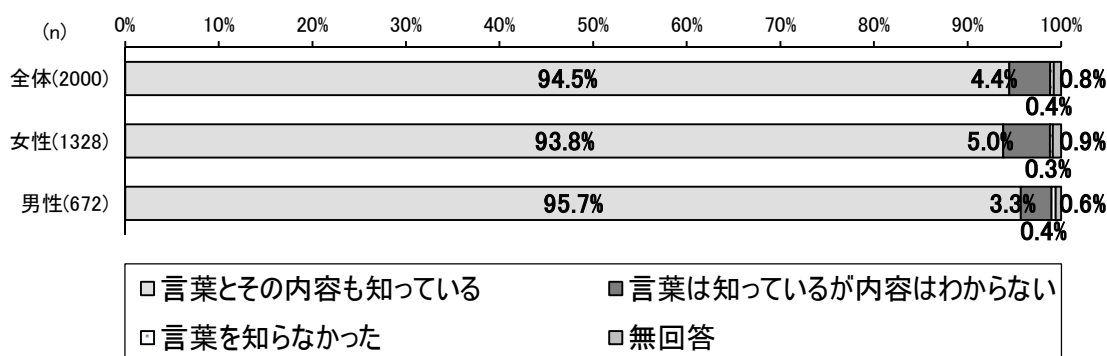
(1) ドメスティック・バイオレンス



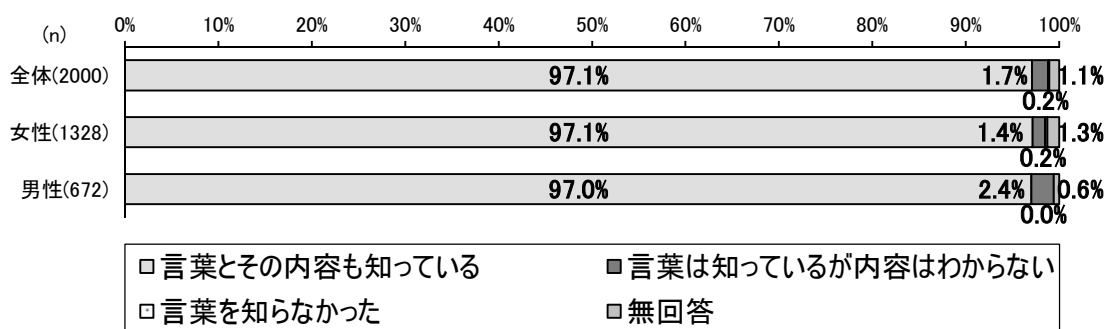
(2) デートDV



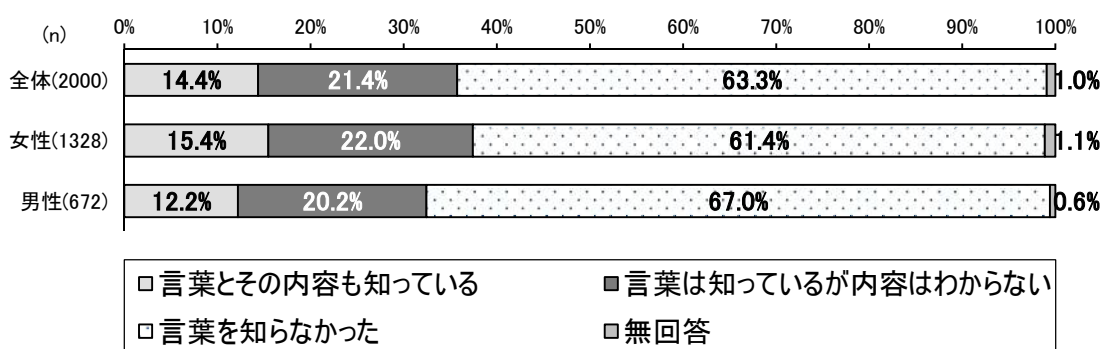
(3) セクシュアル・ハラスメント



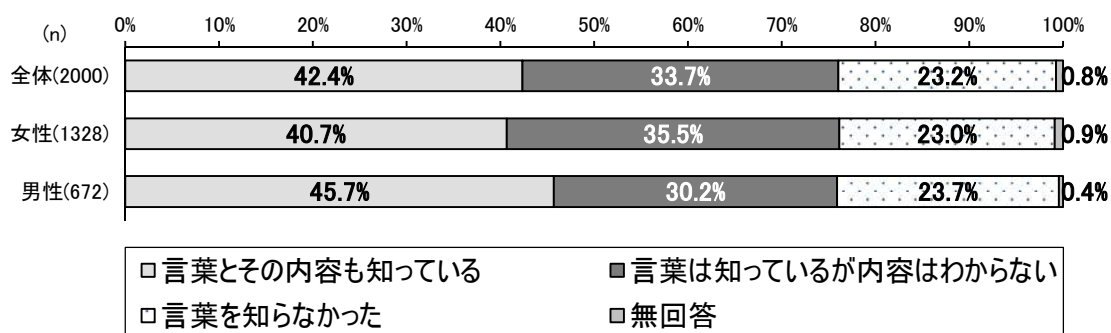
(4) ストーカー



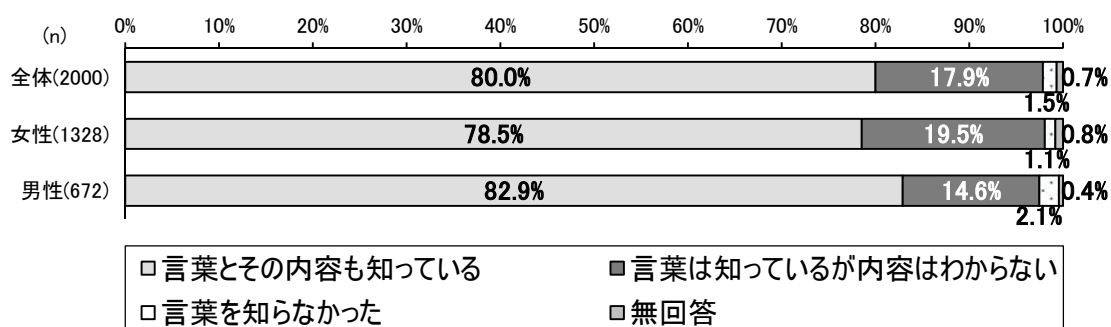
(5) セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツ



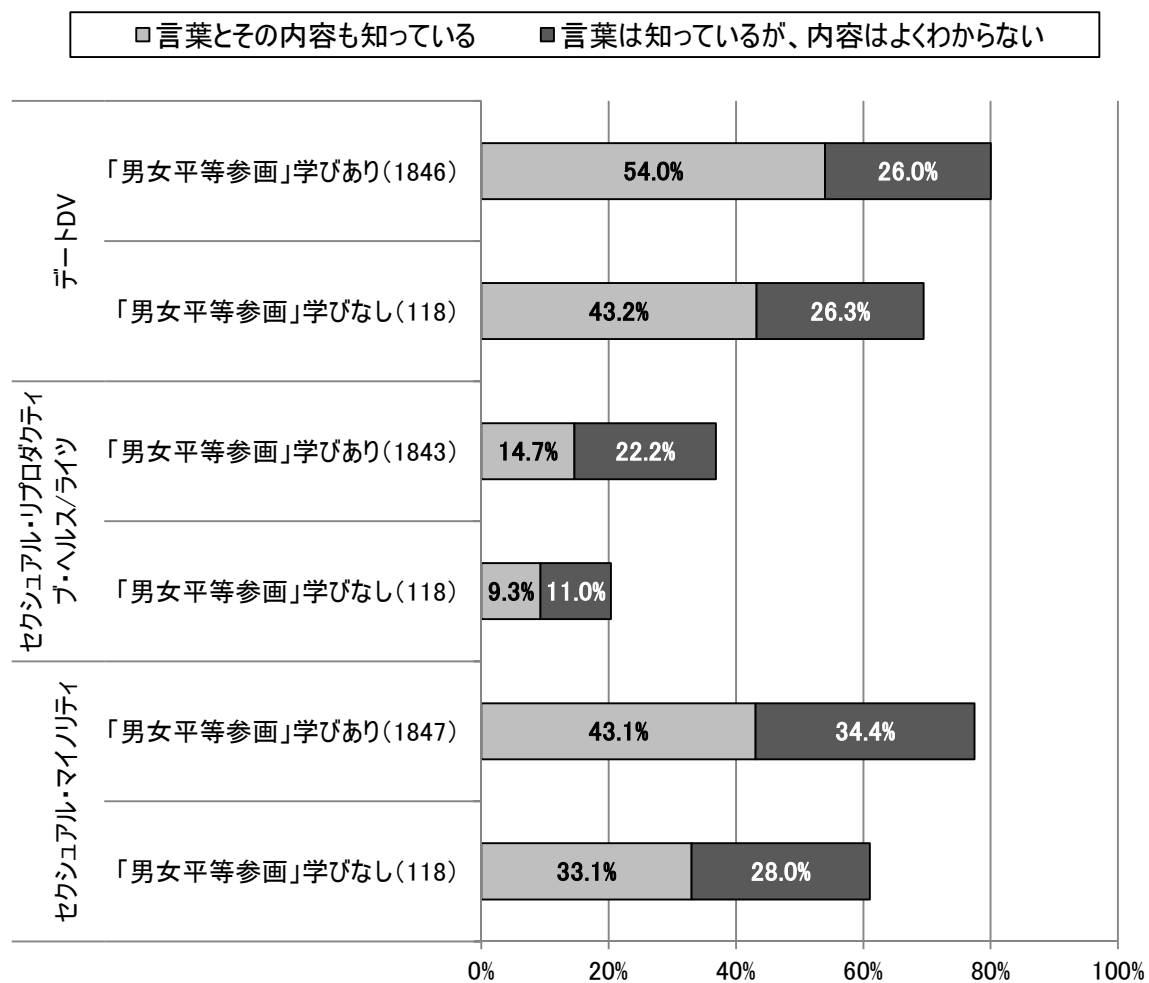
(6) セクシュアル・マイノリティ



(7) 男女共同参画社会



●問 18（言葉の認知度）と問 12（学びの有無）のクロス集計



Ⅲ 調査結果に基づく課題と提案

1 各分野における課題と提案

(1) 男女平等意識について

男女共同参画社会を実現する上で、大きな障害の一つとなっているのが「男は仕事、女は家庭」という性別による役割分担意識である。内閣府が実施した世論調査によると、平成 16 年の調査で初めて反対（「反対」および「どちらかといえば反対」）が賛成（「賛成」および「どちらかといえば賛成」）を上回り、その後は反対の割合が増加傾向にあったが¹、平成 24 年の調査では賛成（51.6%）が反対（45.1%）を再び上回っている²。世論調査では、女性の方が「反対」とする意見が多いことも明らかとなっている。

近年の傾向として、若年女性の保守化が指摘される³。その背景に、「新・性別役割分担」（「男は仕事、女は仕事と家事・育児」）⁴の存在がある。女性が生涯働き続けてキャリアを形成したり、上位職に就く女性の数が増えても、家庭での男性の活躍が進まないと、女性に仕事と家事の二重負担を強いることになる。仕事と家事に追われ疲弊する女性の姿が、若い世代にはロールモデルではなく逆に反面教師となり、若年女性は「男は仕事、女は家庭」という性別役割分担を支持し保守化していると指摘される。これは男女共同参画社会を実現する上で、仕事や社会などの公的側面だけでなく、家庭などの私的側面における男女平等を考えることが重要であることを示唆している。

本調査では、64.5%の大学生の男女が性別役割分担に「反対」と回答し、女性では約 7 割が「反対」としている。このことから、国の世論調査と比較して、大学生では性別役割分担への反対意見が強いことが明らかとなっただけでなく、若年女性の保守化傾向は本調査では見られなかった。

性別役割分担には大半の大学生が反対と回答しているが、親の家庭内での役割分担の設問から、大学生の約 9 割が、家事はほぼ母親が担っていると回答している点が興味深い。大学生は、「男は仕事、女は家庭」という家庭で育ってはいるものの、自身は固定的な性別役割分担には否定的な意見を持っていることが明らかとなった。

大学生の大半は、女性が家庭役割に固定されるのではなく、職業を持つことを支持している。女性がどのような働き方をすべきかについては、女性では再就職型と継続型の支持がほぼ拮抗しているが、男性は再就職型の支持が継続型をやや上回る。前述したように、大学生の大半が性別役割分担に反対であり、女性が職業を持つことに賛成であるが、女性が生涯働き続けることを支持する声は 3 割強に留まっている。子育てで仕事を辞め、子育てが一段落してから働き始める再就職型は、これまでの日本の女性の働き方の典型である。しかしながら、再就職型の場合、子育て役割が女性に集中しすぎてしまったり、女性が職業キャリアを形成するのが困難なため、結果として女性の社会進出に障害となる。再就職型の働き方が日本の女性に多いのは、保育所の不足や長時間労働等の環境面の不備を指摘する声が多い反面、子育ては女性が行うべきものとする母性神話が日本では比較的強いこ

¹ 内閣府男女共同参画局『共同参画』2012 年 10 月号

² 内閣府男女共同参画局『共同参画』2013 年 3 月号

³ 松田茂樹 2009 「性別役割分業意識の変化—若年女性にみられる保守化のきざし」 第一生命経済研究所『WATCHING』

⁴ 松田茂樹 2001 「性別役割分業と新・性別役割分業—仕事と家事の二重負担」 慶應義塾大学『哲学』第 106 集

とも指摘されている⁵。大学生の 37.5%（女性 39.2%、男性 34.1%）が女性の再就職型を支持する理由は、子育ては女性が担うべきものという意識からなのか、両立可能な環境が整っていないからなのかは、本調査からは分からない。

これまでの考察をまとめると、若年層は年配の世代よりも、男女平等意識が強く、固定的な性別役割分担には否定的であることが明らかとなった。大学生の親世代が性別役割分担が強い家庭を形成している点と比較すると、大学生が親世代とは異なる男女平等意識を形成している点は興味深い。大学生は男女平等に対する意識は高いが、実社会は男女平等ではなく、男性優遇であると捉えている。日本社会を男女共同参画社会に近づけるために、男女共同参画社会基本法が 1999 年に施行されたのを契機に、女性が社会でさらに活躍することが求められているが、女性が活躍することに対して、大学生はポジティブなイメージを持っており、社会全体に良い影響をもたらすと回答している。しかしながら、男性中心の現代日本社会において、女性がリーダーになって活躍することは困難とする見方が大半を占めている。これは、女性のリーダーがまだ少ないことが一因と考えられる。女性がさまざまな場面でリーダーとなって活躍するロールモデルを、今後さらに社会に対して示すことの重要性が高いと言える。

⁵ S. D. ハロウェイ 2014『少子化時代の「良妻賢母」』新曜社

(2) 人生キャリアについて

本調査で得られた、大学生が理想とする将来の人生についての回答結果から、今後の男女共同参画社会の実現に向けた課題を2点挙げておきたい。

第一に、若い世代への性別役割分担の再生産の問題である。仕事と生活の理想については、男女とも「仕事と家庭生活ほぼ半々」を理想とする人が最も多いものの、続く回答は女性で「どちらかといえば家庭生活中心」、男性で「どちらかといえば仕事中心」であり、現状の性別役割分担を反映した人生キャリアを思い描く大学生の姿が明らかとなった。そのような彼女／彼たちの理想の人生キャリアは、女性ではこれまでに自身が獲得してきた性別役割分担意識が、男性では親の家庭内での役割分担の状況が影響を及ぼしている。したがって、若い世代への性別役割分担の再生産を減らすためには、すでにこれまでも多方面で指摘されてきたことではあるが、性別役割分担に基づかない家庭生活のあり方や、学校教育における男女平等参画の啓発がより一層必要だと言えるだろう。

また学年が上がるにつれて男性が「仕事中心」の生活を志向する傾向は、就職活動のプロセスの中で男性が企業の論理を内面化していくことによるものと考えられる。大学における男女平等参画に関する教育・啓発にあたっては、就職関連部署とも連携すること、女性のみならず男性に対してもワーク・ライフ・バランスや男女平等参画に関する啓発を行うことが必要である。

第二に指摘したいのは、大学生は、女性が働く環境が十分に担保されていない現代の雇用環境を反映して就職先を選ぶという点である。調査結果からは、男性よりも女性、女性のなかでも特に「家庭生活中心」を志向する女性ほど、就職先を選ぶ際に重視する項目が多いことが明らかとなった。重視する項目が多いとは、言い換えれば、就職先を選ぶにあたって不安が多いということである。女性が就職先を選ぶうえで最も重視する項目が「職場の雰囲気」であることも、彼女たちが、女性が職場で働く環境は担保されていないと考えることを示すものであろう。若い世代が男女共同参画社会の担い手として活躍するためにも、雇用における男女平等の推進は、今後も一層取り組んでいく必要がある。折しも平成27年には女性活躍推進法が成立し、企業にも女性の活躍推進に向けた行動計画の策定等が義務づけられることになった。今後、各企業が次の世代を担う若い世代が職業生活において十分に能力を発揮できる環境の整備を進めていくことを期待する。

(3) 結婚や家族について

大学生は、結婚や家族についてどのような考えを持っているのだろうか。近年の日本社会は、晩婚・非婚化傾向が高まり、それが出生率の低下をもたらし、少子化問題を深刻化させている⁶。少子化問題を考える上でも、大学生の結婚観を明らかにすることは重要であると考ええる。

本調査から、ほとんどの大学生が結婚したいと回答し、将来子どもを持つことを希望していることが明らかとなった。また、子どもを持ちたい理由として、「子どもがいると生活が楽しくなる」の回答が最も多く、子どもを持つことにポジティブなイメージを大学生が抱いていることがわかる。第14回出生動向基本調査（平成22年、国立社会保障・人口問題研究所）では、妻が理想の子ども数を持てない理由として、子育ての金銭的負担を挙げる回答が最も多く、年齢が若くなるにつれ、その傾向が高くなっている。しかしながら、本調査では、子どもを持つことに経済的な負担をイメージする大学生の割合はそれほど多くなく、2割弱であった。本調査で回答した大学生のほとんどが未婚であることから、既婚者を対象にした出生動向基本調査の回答と比較すると、若年層であっても未婚・既婚で子どもを持つことに対する見解が大きく異なることが、本調査から明らかとなった。

以上のことから考えると、現代日本社会が直面する少子化の問題は、子どもを持ちたくない人が増えている結果生じているのではないことが指摘できる。大学生のほとんどは、結婚をして子どもを持ちたいと希望している。この希望を実現するために、ワーク・ライフ・バランス施策の促進や、子育てにかかる金銭的負担を軽減する施策が重要と考える。

⁶ 安蔵伸治「少子化問題を斬る一原因は、未婚化・晩婚化・晩産化にあり―」2013年9月1日
Meiji.net http://www.meiji.net/opinion/population/vol09_shinji-anzo

(4) 男女平等に関する教育について

男女平等教育の学習経験と時期、必要性和適する時期、学校での必要な男女平等の取組に関する意識に関する回答結果から、今後の課題について述べたい。

現代社会に生きる個々人、とりわけ次世代の男女平等参画に関する意識形成は、男女共同参画社会を実現していくうえで重要なことである。学校は、男女共同参画社会へと社会を変革し、実現していく主体形成の場として重要な役割を担っている。それゆえ、各学校段階における男女平等についての教育・啓発は、男女共同参画社会の実現のための有効な一つの手段である。「名古屋市男女平等参画基本計画 2020」の「目標 2 男女平等参画推進のための意識変革」に掲げられた「学校等における男女平等参画に向けた教育・学習の推進」方針は今後もより一層充実していくべき事項である。

今回の調査では、男女平等や性に関する自らの学習経験と、学習の必要性・適する時期とのズレが明らかとなった。「第 8 回 男女平等参画基礎調査報告書」では、若年層になるほど性別役割分担意識などに関して、リベラルな意識を持っており、それらの価値観・態度の教育に対する反応性が高いと指摘されている。今回の調査で明らかとなった若年層の学習ニーズに応えるためにも、より早期の段階から学校段階に応じた学習機会・学習内容の充実が急務である。

とくに、デートDV やセクシュアル・マイノリティなど人権に関わる問題についての学習機会を増やしていくことが望まれる。言葉の認知度に比べて、学習経験の割合は低い。このことは、教育や学校の間ではなく、テレビやインターネットなどから情報を得ていることが推察される。それらの情報は正しいとは限らない。正しい知識と情報を得るための情報リテラシー能力も必要となってくる。そのためにも、教育の間における情報伝達は重要である。さらに、男女共同参画社会の実現に向けて、大きな役割を担う学校においては、学校生活や学校文化、教員の指導という側面において、性別の偏りに敏感な視点と個々人の性を尊重した環境づくりが課題として挙げられる。

これらをふまえ、今後取り組むべき具体策について提言しておきたい。

- 1 各学校段階や生涯学習に応じた男女平等参画に関する教育プログラムの開発および教育プロジェクトや教育セミナーの充実
- 2 若者たち自身による「学びあい」の場の提供
- 3 教員および教員養成機関における男女平等教育の充実
- 4 性暴力やセクシュアル・マイノリティに対する知識・理解の促進

上記を具現化していくためには、教育委員会、研究者、教員、民間のサポート団体など各種機関が連携することが望まれる。

(5) 人権に関わる問題について

本調査の回答結果から、人権、特にDVなどの暴力に関する課題として、以下の3点を指摘したい。

第一に、若い世代においては暴力がより顕在化しにくい形で行われているという点である。調査結果からは、精神的な暴力の経験率に比べて相談を受けたことがある人の割合は低く、またメールや電話などを通じた精神的暴力の被害割合が基礎調査の結果よりも高いことが示された。

第二に、相談先が「友人・知人」に偏っているという点である。第一の課題と併せて考えれば、若い世代はより見えにくい形の暴力にさらされているうえに、暴力を受けた際に適切な相談機関につながっていないという問題が見えてくる。

そして第三に、男性への暴力の問題である。本調査では「避妊に協力してもらえなかった」を除く4つの項目で男性の被害経験率の方が高いという結果が得られた。

なおここで注意しなくてはならないのは、暴力にかかわる言葉の認知度は高いということだ。「ドメスティック・バイオレンス」について「言葉とその内容も知っている」人は9割、「デートDV」について「言葉を知っている」人はおよそ8割に上っている。

したがって今後必要なのは、言葉を知っているという段階を越え、自分が暴力の問題に直面したときに対応できる力を養うための教育や啓発であろう。具体的にはまず、暴力に関する正確な理解を得ることが必要である。殴る蹴るなどの身体的な暴力だけでなく、言葉による暴力や相手の行動の監視、束縛なども暴力であること、そして暴力は女性に対しても男性に対してもしてはいけないものだということを十分に認識する学習の機会が必要である。

また「友人」以外にもたくさんの有効な相談先があることを伝えることが必要である。その際、行政だけでなく、大学も学生相談室などの相談窓口が有効に機能するよう積極的に取り組む必要がある。また「友人」への相談が多いことをふまえれば、相談を受けた場合の対処の仕方を学ぶ機会を設けることも重要であろう。さらには「ネット検索サイトなどで相談窓口を調べる」という回答も相談先の上位に挙がっていることから、携帯やスマートフォンで相談機関のウェブサイトアクセスしやすいよう工夫することも有効と考えられる。

2 今後に向けて

平成 11（1999）年に「男女共同参画社会基本法」が施行されて以降、約 15 年の間に、国および地方自治体においては、男女共同参画に関わる様々な施策や事業が取り組まれてきた。少子高齢化の進展と人口減少社会の到来、家族や地域社会の変化、経済の低迷、非正規労働者の増加と貧困・格差の拡大など、社会情勢の変化や社会のグローバル化に伴う課題を解決するため、内閣府は 3 回に渡り「男女共同参画基本計画」を策定しており、平成 27（2015）年度は、第三次男女共同参画基本計画の最終年度である。

名古屋市においても、「男女共同参画プランなごや 21」（2001-2010 年度）「名古屋市男女平等参画基本計画 2015」（2011-2015 年度）が策定され、平成 27（2015）年度が最終年度である。（これらの計画の成果目標に関する動向や達成状況については、内閣府男女共同参画局・名古屋市公式のウェブサイトに掲載されている）。

著しい社会の変化の中で、すべての市民が、性別にかかわらず、いきいきと活躍することができ、安心して豊かに暮らせる社会の実現のために、新たな一步を踏み出す時期に来ていると思われる。男女共同参画社会の実現の重要な課題の一つは、次世代の育成であろう。本調査は、若年層、とりわけ大学生に対する男女平等参画の効果的な理解促進と意識啓発につなげることを目的として実施したものであり、同時に今後の男女平等参画施策の取り組みに向けての基礎資料として活用するものである。今回の調査結果・分析を踏まえ、今後取り組むべき方向性について指摘しておくことにしたい。

第一に、男女平等意識についてである。今回の調査は、大学生を対象にしたものであるため、若年層全体を示すものではないが、調査結果からは親世代とは異なる男女平等意識を形成していることが明らかとなっており、高齢層と比べると確実に平等意識の方向に向かっていけると言える。しかしながら、職業や人生キャリアについての意識は、男女とも「仕事と家庭生活をほぼ半々」というワーク・ライフ・バランスを理想とする一方で、女子学生は再就職型、男子学生はどちらかといえば仕事中心という従来型の働き方の意識が高い。これらのことは、現状の職業社会および雇用環境の改善が急務であることを示している。平成 27（2015）年成立の「女性活躍推進法」を踏まえ、次世代が十分に個々の能力を発揮できる職業環境のさらなる整備・改善が求められている。

第二に、男女平等教育についてである。調査結果より、大学生自身の学習経験から、早期からの教育が必要であるという声が高いことは明らかとなった。また、先に指摘したように、職業や人生キャリアに関する大学生の意識が「仕事中心」や「再就職型」が高い現状からみて、大学教育における男女平等教育の必要性がより一層求められる。さらには、学校教育に限らず、社会教育・家庭教育も含めた男女平等についての教育・啓発のためのより一層の取り組みが急務である。

第三に、人権に関わる問題についてである。今回の調査結果では、デート DV などの被害経験に関して精神的暴力の被害が 2 割弱、女性よりも男性の被害経験率が高いことが示されている。恋愛・交際において、対等な関係性の構築についてあらためて考える機会が必要とされている。また、被害の相談先として専門機関を挙げる回答が低く、大学・行政等における相談窓口・相談機関に関する情報を周知徹底していくことが必要であろう。

最後に、自由記述についてもふれておきたい。自由記述欄には多くの意見が記入されており、男女平等に関する問題意識の高さがうかがえる。記述には、それぞれの考える男女平等観が表現され、相反する意見も見られる。それだけ社会における男女平等の在り方が、一人一人の生活、生き方、価値観などに影響していることが指摘されよう。

男女平等参画の意識啓発や施策の実行は、多様な意見を取り入れつつ、時代に対応していく必要がある。そのためにも基礎的調査の継続的な実施が望まれる。

IV 資 料

1 調査票

名古屋市から 男女平等参画に関するアンケート ご協力をお願い

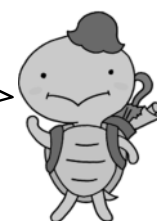
名古屋市では、女性も男性も共に性別にかかわらず個性と能力を発揮し、あらゆる分野に参画していく男女共同参画社会の実現に向けた取組を進めています。その一環として、今回、学生の皆さんの現状とご意見をおたずねし、今後の男女平等参画に関する施策の基礎資料にしていきたいと考えております。

ご多忙の折、誠に恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願いいたします。

なお、お答えいただいた方の個人の情報が漏れたり、調査の目的外に利用することは一切ございません。

- 調査の目的 名古屋市における男女平等参画に関する施策決定の参考
及びそれに関する学術的研究
- 調査対象 名古屋市域に在住・在学の大学生
- 調査方式 無記名方式
- 質問項目数 18問

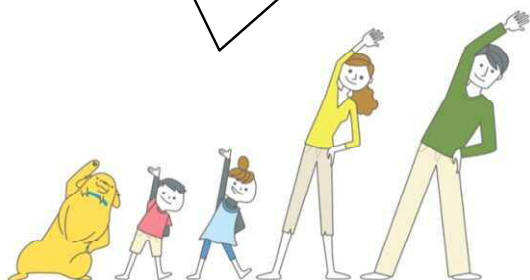
みんなが暮らしやすい
社会について考えています。



＜記入上のお願い＞

- ※ お答えになりたくない質問には、回答しなくてもかまいません。
- ※ 特に指定がない場合は、該当する数字を「○」で囲んでください。
- ※ 「その他」を選んだ場合は、（ ）の中に、具体的に記入してください。

あなたのご意見を
市政に活かします!!



＜アンケートに関するお問い合わせ先＞

名古屋市総務局総合調整部
男女平等参画推進室（担当：磯貝・加藤）
〒460-8508
名古屋市中区三の丸三丁目1番1号
電話：052-972-2234
FAX：052-972-4112

I 最初に、男女平等意識についておたずねします。

問1 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方について、あなたのご意見にもっとも近いものはどれでしょうか。 【1つだけに○】

- | | |
|--------------|--------------|
| 1 賛成 | 2 どちらかといえば賛成 |
| 3 どちらかといえば反対 | 4 反対 |
| 5 わからない | |

▶問1で「1 賛成」、「2 どちらかといえば賛成」と答えた方におたずねします。

問1-1 それはなぜですか。 【あてはまる番号すべてに○】

- | | |
|--------------------------------------|---|
| 1 日本の伝統的な家族の在り方だと思うから | |
| 2 自分の両親も役割分担をしていたから | |
| 3 夫だけが外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから | |
| 4 妻が家庭を守った方が、子どもの成長などにとって良いと思うから | |
| 5 家事・育児・介護と両立しながら、妻が働き続けることは大変だと思うから | |
| 6 その他（ | ） |
| 7 わからない | |

▶問1で「3 どちらかといえば反対」、「4 反対」と答えた方におたずねします。

問1-2 それはなぜですか。 【あてはまる番号すべてに○】

- | | |
|--|---|
| 1 男女平等に反すると思うから | |
| 2 自分の両親も外で働いていたから | |
| 3 夫も妻も働いた方が、多くの収入を得られると思うから | |
| 4 妻が働いて能力を発揮した方が、個人や社会にとって良いと思うから | |
| 5 夫も妻も家事・育児を行い、働いた方が、子どもの成長などにとって良いと思うから | |
| 6 家事・育児・介護と両立しながら、妻が働き続けることは可能だと思うから | |
| 7 固定的な夫と妻の役割分担の意識を押し付けるべきではないから | |
| 8 その他（ | ） |
| 9 わからない | |

問2 女性が職業を持つことについて、あなたはどうお考えですか。

【1つだけに○】

- 1 女性は職業を持たないほうがよい
- 2 結婚するまでは、職業を持つほうがよい
- 3 子どもができるまでは、職業を持つほうがよい
- 4 子どもができて、ずっと職業を持ちつづけるほうがよい
- 5 子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つほうがよい
- 6 その他（ ）

▶問2で「1 女性は職業を持たないほうがよい」、「2 結婚するまでは、職業を持つほうがよい」、「3 子どもができるまでは、職業を持つほうがよい」と答えた方におたずねします。

問2-1 それはなぜですか。 【あてはまる番号すべてに○】

- 1 女性は家庭を守るべきだと思うから
- 2 子どもは母親が家で面倒を見た方がいいと思うから
- 3 保育料などを払うより、母親が家で子どもの面倒を見た方が合理的だと思うから
- 4 女性も経済力を持った方がいいと思うから
- 5 夫婦で働いた方が多くの収入を得られるから
- 6 仕事と家庭の両立支援が十分ではないと思うから
- 7 働き続けるのは大変そうだと思うから
- 8 その他（ ）
- 9 わからない

▶問2で「4 子どもができて、ずっと職業を持ちつづけるほうがよい」、「5 子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つほうがよい」と答えた方におたずねします。

問2-2 それはなぜですか。 【あてはまる番号すべてに○】

- 1 女性は家庭を守るべきだと思うから
- 2 働くことを通じて自己実現が図れると思うから
- 3 子どもは母親が家で面倒を見た方がいいと思うから
- 4 保育料などを払うより、母親が家で子どもの面倒を見た方が合理的だと思うから
- 5 女性も経済力を持った方がいいと思うから
- 6 夫婦で働いた方が多くの収入を得られるから
- 7 女性が能力を活用しないのはもったいないと思うから
- 8 少子高齢化で働き手が減少しているので、女性も働いた方がいいと思うから
- 9 仕事と家庭の両立支援が十分ではないと思うから
- 10 その他（ ）
- 11 わからない

問3 あなたは、政治・経済・地域などの各分野で、女性の参加が進み、女性のリーダーが増えるどのような影響があると思いますか。 【あてはまる番号すべてに○】

- 1 多様な視点が加わることにより、新たな価値や商品・サービスが創造される
- 2 人材・労働力の確保につながり、社会全体に活力を与えることができる
- 3 女性の声が反映されやすくなる
- 4 国際社会から好印象を得ることができる
- 5 男女問わず優秀な人材が活躍できるようになる
- 6 男女問わず仕事と家庭の両立を優先しやすい社会になる
- 7 労働時間の短縮など働き方の見直しが進む
- 8 男性の家事・育児などへの参加が増える
- 9 今より仕事以外のことが優先され、業務に支障を来たすことが多くなる
- 10 男性のポストが減り、男性が活躍しづらくなる
- 11 保育・介護などの公的サービスの必要性が増大し、家計負担及び公的負担が増大する
- 12 その他（ ）
- 13 わからない

問4 あなたは、政治・経済・地域などの各分野で女性のリーダーを増やすときに障害となるものは何だと思いますか。 【あてはまる番号すべてに○】

- 1 現時点では、必要な知識や経験などを持つ女性が少ないこと
- 2 女性自身がリーダーになることを希望しないこと
- 3 上司・同僚・部下となる男性や顧客が女性リーダーを希望しないこと
- 4 長時間労働の改善が十分ではないこと
- 5 企業などにおいては、管理職になると他県・市などへの広域異動が増えること
- 6 保育・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分ではないこと
- 7 保育・介護の支援などの公的サービスが十分ではないこと
- 8 その他（ ）
- 9 わからない

問5 あなたは、社会全体で、男女の地位は平等になっていると思いますか。もっともあてはまると思う番号に○をつけてください。 【1 つだけに○】

- 1 男性の方が優遇されている
- 2 どちらかといえば男性の方が優遇されている
- 3 平等
- 4 どちらかといえば女性の方が優遇されている
- 5 女性の方が優遇されている
- 6 わからない

Ⅱ 次に、あなたの人生キャリアについておたずねします。

問6 将来、仕事と家庭生活のどちらに重点を置くかについて、あなたの理想についてもっともあてはまると思う番号に○をつけてください。 【1つだけに○】

- 1 仕事中心
- 2 どちらかといえば仕事中心
- 3 仕事と家庭生活ほぼ半々
- 4 どちらかといえば家庭生活中心
- 5 家庭生活中心

問7 あなたは就職先を選ぶときに次のうちどのようなことを重視しますか。
【あてはまる番号すべてに○】

- | | | |
|-------------|-----------|--------------|
| 1 将来性 | 2 企業規模 | 3 自分の成長・やりがい |
| 4 仕事内容 | 5 安定性 | 6 給与水準 |
| 7 職場の雰囲気 | 8 教育・研修制度 | 9 勤務時間・休暇 |
| 10 勤務地・通勤の便 | 11 福利厚生制度 | 12 社員の定着率 |
| 13 男女格差がない | 14 転勤の頻度 | 15 社会への貢献度 |
| 16 企業理念 | 17 その他（ ） | |

Ⅲ 次に、結婚や家族などについておたずねします。

問8 結婚についてどのように思いますか。もっともあてはまると思う番号に○をつけてください。
【1つだけに○】

- 1 法律に基づく結婚がしたい
- 2 法律や形式にはこだわらない（事実婚や同棲などでもよい）
- 3 結婚するつもりはない
- 4 既に結婚している
- 5 わからない

問9 将来、子どもを欲しいと思いますか。もっともあてはまると思う番号に○をつけてください。
【1つだけに○】

- 1 子どもは欲しい
- 2 パートナーが望めば持ってもいい
- 3 子どもは欲しくない
- 4 既に子どもを持っている
- 5 わからない

問10 子どもを持つことについてどう思いますか。あてはまると思う番号に○をつけてください。
【○は3つまで】

- 1 子どもを持つことは自然なことである
- 2 自分の子孫を残すことができる
- 3 自分の家の名を残すことが出来る
- 4 子どもを持つことで周囲から認められる
- 5 子どもがいると生活が楽しく豊かになる
- 6 子どもは老後の支えになる
- 7 子どもは将来の社会の担い手にある
- 8 子どもは夫婦関係を安定させる
- 9 好きな人の子どもを持ちたいから子どもを持つ
- 10 配偶者や親など周囲が望むから子どもを持つ
- 11 自分の自由な時間が制約される
- 12 経済的な負担が増える
- 13 身体的・精神的な負担が増える

問1 1 あなたの親の家庭内（家事、育児、介護など）での役割分担についておたずねします。もっともあてはまると思う番号に○をつけてください。 【1つだけに○】

- 1 家事などを父親が担っていた
- 2 どちらかといえば家事などを父親が担っていた
- 3 両親とも同じくらいの家事分担であった
- 4 どちらかといえば家事などを母親が担っていた
- 5 家事などを母親が担っていた
- 6 主に他の家族（祖父母、親戚など）が家事などを担っていた
- 7 わからない

IV 次に、男女平等に関する教育についておたずねします。

問1 2 次の 1 から 6 のテーマについて、あなたは学んだことがありますか。また、学んだことがある場合、その「学んだ時期」についてあてはまると思う番号に○をつけてください。

【それぞれの項目で、あてはまるものすべてに○】

	【学びの有無】		ある場合、右の項目へ進む あてはまるすべての 時期の番号に○	【学んだ時期】			
	あ る	な し		小 学 校	中 学 校	高 校	大 学
【記入例】男女の体の発育・発達	1	2	⇒	1	2	3	4
1 男女の体の発育・発達	1	2	⇒	1	2	3	4
2 受精・妊娠・出産	1	2	⇒	1	2	3	4
3 男らしさ、女らしさ、ジェンダー、男女平等参画	1	2	⇒	1	2	3	4
4 デートDVなどの暴力	1	2	⇒	1	2	3	4
5 エイズ・性感染症の予防	1	2	⇒	1	2	3	4
6 セクシュアル・マイノリティなどの性の多様性	1	2	⇒	1	2	3	4

問13 次の1から6のテーマについて、学ぶ必要性をおたずねします。また、学ぶ必要性があると思う場合、その「適する時期」についてあてはまると思う番号に○をつけてください。

【それぞれの項目で、あてはまるものすべてに○】

	【必要性の有無】		ある場合、右の項目へ進む あてはまるすべての 時期の番号に○	【適する時期】			
	あ る	な し		小 学 校	中 学 校	高 校	大 学
【記入例】男女の体の発育・発達	1	2	⇒	1	2	3	4
1 男女の体の発育・発達	1	2	⇒	1	2	3	4
2 受精・妊娠・出産	1	2	⇒	1	2	3	4
3 男らしさ、女らしさ、ジェンダー、男女平等参画	1	2	⇒	1	2	3	4
4 デートDVなどの暴力	1	2	⇒	1	2	3	4
5 エイズ・性感染症の予防	1	2	⇒	1	2	3	4
6 セクシュアル・マイノリティ等の性の多様性	1	2	⇒	1	2	3	4

問14 あなたは、学校における男女平等参画をすすめるために行った方がよいと思う番号に○をつけてください。 【あてはまる番号すべてに○】

- 1 学校生活の中で、性別による役割分担をなくす
(例：リーダー的役割は男子で、補佐役は女子など)
- 2 男女平等の意識を育てる授業をする
- 3 進路や職業の選択において、男女の区別なく能力を活かせるよう指導する
- 4 教職員に対して、男女平等についての理解が深まる研修を行う
- 5 校長や教頭に、もっと女性を増やしていく
- 6 保護者に対して、性別による役割分担をなくすなど男女平等に対する理解を促す
(例：PTA 会長は父親、補佐役は母親という性別による固定的役割分担意識の解消など)
- 7 その他 ()

V 次に、人権に関わる問題についておたずねします。

問15 これまで交際経験はありますか。

1 交際経験あり

2 交際経験なし ⇨

問16へ

▶問15で「1 交際経験あり」と答えた方におたずねします。

問15-1 あなたは、交際相手などから次のような被害を経験したことがありますか。あてはまると思う番号に○をつけてください。【それぞれの項目で1つだけに○】

	ない	1～2 回ある	何回も ある
(1) バカなどと、傷つく呼び方をされた	1	2	3
(2) 交友関係や、電話やメールを細かくチェックされた	1	2	3
(3) 殴るふりや、けるふりをされた	1	2	3
(4) 殴られたり、けられたりした	1	2	3
(5) 避妊に協力してもらえなかった	1	2	3

すべての方におたずねします。

問16 あなたは、交際相手などからの暴力について、学校やクラブ・サークル、アルバイト先などで目撃したり相談を受けたりしたことがありますか。

【それぞれの項目で1つだけに○】

	ない	1～2 回ある	何回も ある
(1) 噂を聞いた	1	2	3
(2) 目撃した	1	2	3
(3) 相談を受けた	1	2	3
(4) 専門の相談窓口をすすめた	1	2	3

問17 もし、あなたが交際相手などからの暴力やセクシュアル・ハラスメントの被害を受けた場合、どこに相談しますか。 【あてはまる番号すべてに○】

- 1 友人・知人
- 2 家族・親戚
- 3 学校関係者（学生相談室、教員など）
- 4 公的相談施設（男女平等参画推進センター・配偶者暴力相談支援センターなど）
- 5 上記4以外の公的機関（市・区役所、県など）
- 6 警察
- 7 法務局、人権擁護委員
- 8 民間の専門家や専門機関（弁護士、カウンセラー、支援団体など）
- 9 医療関係者（医師、看護師など）
- 10 地域の役員
- 11 相談窓口を知らない
- 12 ネット検索サイトなどで相談窓口を調べる
- 13 どこ（だれ）にも相談しない
- 14 その他（ ）

問18 次のうち、あなたが知っている言葉はどれですか。

【それぞれの項目で1つだけに○】

	言葉と その内容も 知っている	言葉は 知っているが、 内容はよく わからない	言葉を 知らなかった
(1) ドメスティック・バイオレンス	1	2	3
(2) デートDV	1	2	3
(3) セクシュアル・ハラスメント	1	2	3
(4) ストーカー	1	2	3
(5) セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツ	1	2	3
(6) セクシュアル・マイノリティ	1	2	3
(7) 男女共同参画社会	1	2	3

Ⅵ 最後に、あなた自身のことについておたずねします。

F 1 性別 【1つだけに○】

- | | | |
|------|------|-------|
| 1 女性 | 2 男性 | 3 その他 |
|------|------|-------|

F 2 学年 【1つだけに○】

- | | | |
|----------|------------|-----------|
| 1 学部 1 年 | 2 学部 2 年 | 3 学部 3 年 |
| 4 学部 4 年 | 5 学部 5・6 年 | 6 その他 () |

F 3 学部 【1つだけに○】

- | |
|-----------------------------------|
| 1 文系（文学、社会学、経済学、法学、教育学、芸術学、家政学など） |
| 2 理系（医学、工学、理学、理工学、農学、薬学、数学、情報学など） |
| 3 その他 () |

F 4 大学 【1つだけに○】

（五十音順）

- | | | |
|-----------|----------|------------|
| 1 愛知教育大学 | 2 愛知淑徳大学 | 3 椋山女学園大学 |
| 4 中京大学 | 5 同朋大学 | 6 名古屋女子大学 |
| 7 名古屋市立大学 | 8 名古屋大学 | 9 南山大学 |
| 10 日本福祉大学 | 11 名城大学 | 12 その他 () |

F 5 生活スタイル 【1つだけに○】

- | | | |
|---------|----------|-------|
| 1 家族と同居 | 2 ひとり暮らし | 3 その他 |
|---------|----------|-------|

F 6 高校生のとき、あなたのお住まいはどこでしたか。 【1つだけに○】

- | | | |
|---------|---------------|-------|
| 1 名古屋市内 | 2 愛知県内（名古屋市外） | 3 岐阜県 |
| 4 三重県 | 5 その他の都道府県 | |

[男女平等（共同）参画について、ご意見などありましたらご自由にお書きください]

キーワード〔就職、女性の活躍、子育て、介護、働き、共働き、DV、セハラ、セマイ、教育、地域・家庭 など〕

This image shows a single sheet of white paper with horizontal blue or grey ruling lines. The lines are evenly spaced and run across the width of the page. There is no handwriting or other markings on the paper.

ご協力いただき、ありがとうございました!!



（１）男女平等に関する意見

ア 全般

- ・ 平等と自由は違うし、平等とわがままは違う。行動が正しくあるべきと捉えるのではなく、自分のしたい選択を通したいのであれば通せる環境づくりをすべき。女性の活躍が、と「男性社会の企業」で文句を言うのはお門違い。同職種を探せば良いし、嫌なら自立すべき。セクシャルマイノリティに対して相談受付をしてはいるが、精神医学もあわせて診ると、大部分はただの自己否定か問題のすり替え。
- ・ 男女平等・共同参画を目指すにあたって、重要視すべきは数値目標だけを掲げるのではなく内容を伴わせることではないでしょうか。友人の通う工業系の高専では女性が少ないことから女性枠を設けて女性入学者を増やそうと試みていましたが、内容や制度が整っていないのか、その枠で入学した学生は成績の悪い人が多いそうです。そのような現状を考慮しますと、数値目標だけをとりあえず整えるのは誰のためにもならないと思うので、時間はかかっても内容をきちんとすべきと感じます。
- ・ 大学に入って初めて DVD の実態やセクシャルマイノリティについて詳しく学んだのですが、人としてみんなが知るべきだと思いました（授業を受けた人だけでなく）。女性が働くことを推進するというよりは働きたい人が働ける環境を整え、男女の機会の平等を実現させてほしいです。今の状況では少子化に歯止めは絶対にかからないと思います。今の若い世代は「男女平等」などわざわざ言われなくても、意識はあると思います。社会がいかに制度を整えるか次第だと思います。
- ・ 行政がより男女共同参画社会の推進を行っていくとよりよい社会が築けると思います。私たち市民も協力するので頑張りましょう。
- ・ 女性のリーダーが少ないのは単純に野心を持つ女性や頭の回転が速い女性が男性よりも少ないからなのではないかと思う。今までに企業などで働いた経験がないので一概には言えないが、までの学校の生活などから考えると女性は男性に比べて公の場では消極的であった比率が高かった。そのため、その学校などの生活などから女性は内面的であるという考えが固定概念として定着してしまっているので、女性がリーダーの数が少ないというだけで男女不平等と考えてはいけな。しかし、女性でもリーダーになれる資質があるのに、女性というだけで差別され昇進ができない状態にあるのであれば、リーダー数が少ないのに納得がいき、改善すべきであるので、現状を良く調査し、そのような相談にも耳を傾けて考えていってどのような根拠を持って政策を実行するのかを念頭に起きながら、役所の人には考えてもらいたい。女性のリーダーが少ないという問題よりも出産や育児の為の休職から復職が実際の会社内できちんと整備されているかの方が重要であると考え。日本の傾向として新卒をいっせいに採用するという傾向があるため、一度退職してしまうと新たな会社に好条件で今までのキャリアを考えられた地位で就職するのは難しく再就職しても 1 番下の業務から始まると思うので、育児の為の退職は女性の復職への妨げとなると思うので日本の風潮を考慮して育児休暇はとても重要視すべきである。
- ・ 働きながら子育てを行うことのできる制度が整っていないため、女性の活躍や共働きしながらの子育ては難しいと思う。また、介護や子育てのために一度職場をはなれてからの再就職も形式上での制度はあるが、実際には難しいことであると思う。DV、セクハラ、セクマイなどの教育を学校だけでなく地域や家庭でも教育する必要がある。
- ・ もっと女性にしかできない能力を活かして、女性の社会進出を増やすことができれば新たな発見ができるのではないかと思う。その結果が男女平等参画社会につながっていくと思う。
- ・ 男女平等参画というのは、もともと男尊女卑だった社会から、女性の力を強めて男女平等な状態を目指す、ということだと認識しています。確かに、雇用などの経済的な面での男女格差はあると思いますが、場面によっては女尊男卑になってしまっている、とも感じています。女性専用車両が地下鉄東山線で終日運用されるようになりましたが、女性だけすいている車両に乗れて男性が乗れないのはやはり平等でないと思います。同様に雇用も含めて様々な機会、男女平等にしようとするあまり女尊男卑に傾かないように注意すべきだと思います。
- ・ 能力や考え方は、性別（体、心）に依るものと依らないものとあると思う。それらを正確に加味した男女共同参画が必要だと思う。

- ・ 男女平等参画社会とは言うものの、果たしてそれはいつから言われるようになったのだろう。そろそろ反省点や改善点は見つかったのだろうか。平等だからって、何もかも平等にする必要はある？それに需要はある？女性の社会進出…そのフォローって果たしてどうなの？子供の気持ちを考えている？“女性が不遇だ”と言われ、女性が喜ぶ環境ばかりが増えていない？男性はどう？女性が働ける環境を提供する割に、子供が育つ環境が無いがために、辞める人、あるいは、愛を知らずして大人になってしまう人、いると思います。このリスクを考慮して子供を生まない夫婦、女性、いると思います。子どもが減って嘆く人、政治家、その他もろもろいると思います。男女の平等を考えるのも大事かもしれないけど、子供という宝を尊重する社会を築いてみるのはいかがでしょうか。自由を尊重しすぎたがために、生物本来の目的まで持たなくなってしまった人間の生きる理由。ここまで、考えると少し宗教チックな気もして、嫌ですけど。その当たり前を無にしてしまった結果が今だと思っています。数年後、自分も子供を持つと思います。その時、市全体が、国全体が子供という宝を尊重しているのであれば、我々も心置きなく、家庭・会社の両者に100%の力を注げるでしょう。
- ・ 小学校の頃から、男女平等共同参画社会を目指すと言われてきたが、それから約10年ほどたってもたいして目立った変化がないように思える。女性議員を増やすといっても自然と増えていってる感じはしないし、女性専用車両などで女性を守りにいっている感じがするので男女共同参画社会というよりは自分の回りで言われているのは「女尊男卑」だと言われているのでなにか違う方向へと向かっている気がする。だからもっと今までとは異なる視点から男女共同参画社会を目指すべきだと思う。10年ほどでは変化しないのは当然と考えるのか、10年で変化がないのはまずいと考えるのか。多くの人が少しでもそのこと念頭に置いてこれからの変化について考えるべきだと思う。

イ 意識

- ・ 政治界でまだ女性の批判がニュースになっていた。政治界があんな風になっているからなかなかしんとうしないと思った。あと職場の場合で「上司が女性だと男性のプライドが許さない」という先入観がまだまだあると思います。
- ・ 男女共等の社会を目指していきたいです。
- ・ 過度に「男女平等参画を進めよう」とする政策自体が、現在の社会が“男女平等でない”と唄っている気がして少し違う気がする。今の大学生は“男女平等でない”とそこまで思っていない気がする。
- ・ 男女平等は必要だと思うが、今は女性が優先されているように感じる。少し不満。
- ・ 上の人が考えたところで実際に一般市民の考えが変わらなければ(女性が働きたい、活躍したいという考えにならなければ)何も変わらないし、無理やり平等をつくるのもハラスメントだと思う。働きたい、活躍したい人のためにそのような環境をつくるのはいいと思う。
- ・ 男女は平等だと思ってません、かと言って優劣が決まってるとも思いません。☆[性別]によりその人のしたい事を制限されるのは悲しいことだと思います!!!
- ・ 女性が社会で活躍している場は多く見かけますが、このような言葉がまだあるということは、平等になっていないのだと思います。私自身が社会人になって、またその後どのように変わっていくのかとても興味深く思います。
- ・ 男女は本当に平等になるのでしょうか
- ・ 私個人としては、男女の境なく人として生きられる社会を目指すべきだと思いますが、近年の過剰なフェミニ(女尊男卑にも捉えられる程度のもの)には疑問を隠せません。
- ・ 女性を優遇することと男性を冷遇することはイコールではないと思うので、そこらへんを履き違えないで欲しい。女性の社会進出と出生率の向上はトレードオフだと思うのでその辺りの議論をしっかりして頂きたいです。
- ・ 法律上の男女平等や今の政策、世論の流れは本当に男女平等ではなく平面上の男女平等である。男女で適していることは違うのでそれに合わせた仕事や役割を担えばよく、無理矢理平等にさせるのは意味がない。それぞれの長所を生かし、尊重し合えばよいと思う。
- ・ 男女平等は悪いことではないとは思いますが、最近の女性に対する過保護はむしろ差別的だ。
- ・ 男女平等という目標がかかげられているが、男性の方が社会的地位が圧倒的に高いと考える。もっと女性が優遇される社会をつくれるよう改善すべきであると考えます。

- ・ 男で就活生の私は、「就職できなくても結婚して養ってもらえばいいや」という女性がむしろやましいと思います。リーマンショックからの不況後、回復傾向にあるとは言え、就職状況は未だ厳しい状況だと思います。ただ、「男女平等参画」、「女性の社会進出」をうたうのではなくて、それをも超越した男女問わない就職・昇進等の支援援助をしていくべきではないでしょうか。
- ・ 男女平等の動きは女性である私は望んでないです。女性として出産、育児などのワークライフを仕事を気にせず楽しみたいです。今就職活動を行っていますが、女性も総合職のみの採用が多くなり少し戸惑っています。働くことより女性としてのライフステージ、家事に費やす時間を望んでいます。
- ・ 男らしさ、女らしさがある方が私は良いと思います。同性婚は、日本の未来にとって良くないことだと思う。(人口減少など)
- ・ 性差を基準とした区別ではなく、各個人の人生設計を可能な限り尊重する社会が、男女平等参画社会の理想と考える。

ウ 家庭

- ・ 男性が仕事中心、女性が家事中心という考え方はおかしい。性差なく、皆がやりたいようにすればよい。ただ、女性にはにんしんなどの問題もあるため、その問題を抱えた上で、それぞれが、どうするか考えればよい。
- ・ 子育てにおいて、平等を意識させるなら今よりもっと補助金を出さないと効果は期待されないでしょう。
- ・ イクメンはまだ日本の社会ではマイノリティだと思うので、もっと女性が活躍すると同時に、家庭内での家事など妻と夫が協力しながら男女が社会でも家庭内でも平等な社会づくりがされていけばいいなと思います。
- ・ 母親が働くことは、母親が家庭以外のコミュニティを持つことにつながり、家庭だけに母親を縛りつけることも無くなるため、大変良いことではないかと考えます。その為には父・子など家族のサポートが絶対に不可欠であるため、こういった考え方を小さな頃から持てるような教育をしていくべきだと思います。
- ・ 男性ももっと家事や育児をするように小さいころからの意識改革。
- ・ メディアなどで話題のイクメン!!男性が積極的に育児や家事に参加することはとてもいいことだと思います。河村さん、もっと名古屋を元気にしてください!!
- ・ 共働きをするということは悪いことではないと思う。実際、私の両親も共働きをしていて、そのおかげで経済的にも助かった所もあった。また、私の場合は祖父、祖母が家にいたので、1人になることがなかったので、共働きが成立したと思う。その点では共働きにはリスクもあると思う。
- ・ ・子どもは、母親がそばにいて育てることが大切だと思うけれど、その分、父親は、母親にたくさんの愛情をそそいでほしいと思う。もちろん、子どもにも。自分の両親みたいな夫婦になりたいと思う。
- ・ 今の時代、男は外・女は内という言葉はあまり聞かなくなったので女性の活躍の時代となっている。私は、結婚願望がないのであまり考えていない。どちらかと言えば仕事を頑張り奨学金の返済のためお金にゆとりがないからである。
- ・ 女性の社会進出は進んでいますが、男性が家事をすることは少ないのが現状であるため、女性が外と家の仕事をしなければならないことになっているので昔より今の方が女性の負担が大きくなっていると思う。

エ 労働

- ・ 自分のやりたい職につくのは良い事だと思うので。子どもができたからといってやめる必要もないし、様々な制度を使っていて、もし、不便に思う事があれば、制度を見直していく事もできるから、もっと民間の女性の意見を取り入れたらいいと思いました。
- ・ 女性が働きやすいように育児や介護に関する制度をもっと充実させてほしいです。
- ・ 薬剤師は女性が多いので、性に関わらず、能力のある人がもっと報酬を得られる社会になっていけばいいと思う。

- ・ 建設業界の施工管理に就職したいと思っていますが、男女不平等を感じたことがあります。「女だから」とかで断られたこともあります。建設業は確かに「男社会」とも言われますが、最近のニュースなどで女性の活躍を期待していると伺いましたが、自分はまだ自感していません。
- ・ 女性が働きやすい環境をつくることもいいけど、それぞれの価値観を大切にしないといけないと思います。
- ・ 女性の活躍を促進するために、女性にも、男性のやっている仕事を経験や実践してみるとよいと思います。
- ・ 私は現在推し進めている女性活躍推進法に疑問をもつ。なぜなら国が思っている程女性は管理職を望んでないからだ。このままでは男女問わず活躍の場が制限されるのではと懸念している。なので私は公務員志望ということもあって公務員になったら国のマクロ的な法律でなくミクロ的視点で政策立案を行いたい。
- ・ 仕事のキャリアを積むことと子育てを両立できる社会になってほしいと思う。
- ・ 育児休業などが男性がとろうとすると、世の流れ的に拒否されないまでも冷たい目で見られることがあるというわさをきいたことがあるので、そういうことが解消されなければ、個人の意志がかわっても難しいと思う
- ・ 子育てについて、育児休暇が短すぎる。夫と協力しても2年しかないし、休暇をとる男性も3%しかないのはおかしい。
- ・ 現在就職活動中ですが、企業は男女平等を推してきます。でも、私は一般職が良いと思っているので、総合職のみの採用になると困ります。どんどん上を目指したい女性もいるので、女性の総合職採用は良いと思いますが、一般職の選択肢も残してほしいです。また、社員の方の話を聞いていると、両立は難しそうだし、何より私は、子どもが小さいうちは一緒にいてあげたいし、学校から帰ってくる時間には家にいてあげたいので、仕事との両立は難しいのかな、と思います。育休・時短勤務の期間がもっと長くなれば、続けられるのかもしれませんが、今後は復帰のことが心配です。就活をしていて、周りでもこういう話を聞くので、必ずしも女性の社会進出を喜んでいる人ばかりではないと思います。また、母親は私の出産とともに仕事をやめ、今はパートとして働いているので、自分もそうなるのではないかと漠然と思っています。
- ・ 学生時代から女性リーダー輩出のための取り組みがなされていないことと、就職後も、女性の活躍する場が提供されてないことが、障壁となっていると考えている。恐らく多くの人が考えている不安だと思う。社会全体の風潮が、まだまだ男女共同参画社会を受け入れがたいことも影響しているはず。
- ・ 管理職にもっと女性を増やすべき！女性の管理職が少なすぎるから、いつまでたっても男女平等の風潮が定着しない。
- ・ 男性の育児率を高めて欲しい。そのために休みをとれる環境づくりをして欲しい。男性は育児休暇をとれるように……
- ・ 企業内で、時短勤務などの制度が定着しつつあると感じています。しかし、全ての企業で導入されておらず、共働きや子育ての両立が難しい環境だと思っています。
- ・ 就活がこれから始まっていく中で、女性が活躍できそうな職場を選びたいと思うので、もっと女性の地位が確立される場所が増えるといいと思う。
- ・ リーダーが女性になることに関して、別にかまわないと思うが、とにかく能力で選んでほしい。「女性だから」という理由だけでリーダーを選ぶと、それこそ男性差別だし、能力が伴っていないと、部下が大変な目に会う。男性でも女性でもリーダーは誰でもいい、とにかく能力で選ばれる社会にしてほしい。
- ・ 女性雇用のため、女性を優先して採用していくのはどうかと思う。平等だとはいうものの、男女間の考え方、性格は異なるものがあると思う。
- ・ 子供を生むことは男性にはできないのだから女性の社会進出には育休、子育て支援等が大事になると思う。

オ 教育

- ・ 子供たちに特別に男女平等について教育する必要はないと思う。大人が社会で男女平等を実現させれば、それがあたりまえになると思う。

- ・ 高校、大学が文系と理系の男女比はいつも疑問を感じる。差が激しすぎる。それによって進路も男女差が出て、専門領域になっても男ばかり、女ばかりという事実が起きるのではないのか。男が理系、文が文系という概念が根底にあってそういった差が起こるのならば問題は教育機関にあるのではないかと思う。共働き世帯への公的支援がもっとあれば男女が平等に社会参加できるのではないかと考える
- ・ 男女平等の夢を叶えるためには、まず、仕事は男、家事は女という考え方を、小学校などの小さいときから教え込む教育をしていく必要がある。男性も女性も共に働き、共に家事をし、共に子育てができる社会地域づくりにこれから、ぜひ、力を注いで頂きたい。皆が笑顔で、喜びを分かちあえるような地域、そして、それが、日本へと広がり、世界へと広がれば、これより嬉しいことなどないであろう。これから私は社会を担う立場の人間になっていくのであるが、出来るだけ多くの人々が幸せだと感じられるような社会を作るために、これからの学生生活を過ごしていきたいと思う。今までの自分を振り返る良き機会をありがとうございます。ぜひ、住みよい町を皆で協力して作っていききたいものです。
- ・ 男女平等以前に全ての人々は平等という感覚を養うことが大切なのではないかと思う。それは教育が果たす役割であると思うし、小学校教育から行う必要がある。

カ 人権

- ・ セクシャルマイノリティについてもっとオープンな社会になってほしい。以前“好きに変はない展”というものが東京で開かれていたらしく、話題になった。それをみて考えて変えた人もいるくらい。だから、そういうものがあたり前、社会の常識になるようにしてほしい。これは教育である程度なんとかできると思う。また男女格差は歴史認識を改めて行うことでも是正されると思う。全体的に日本は“性”に関わる知識が開かれておらず、それがこうした問題の根源になっているようにも感じる。
- ・ 男女平等はもちろんいわゆるセクマイと呼ばれる人も平等に参画できたらよいと思う。
- ・ デート DV についてもっと授業でも取り上げるべきだと思う。男性経験が少ない人が 20 才以降お付き合いするとすると、わからないことはたくさんあるから。私自身がそうだったように!!
- ・ 関係ないかもしれないけれど、性の乱れが気になる。性の教育は日本では少しタブー化されてる感じがする。もっと正しい知識が定着するようにしてほしい。性病やエイズの危険性、妊娠の危険性についてもっと考えられるようになってほしい
- ・ セクシャルマイノリティについて、いろいろな世代の人に知ってほしいと感じます。幼いころからの教育が必要なのではと思います。
- ・ 男女参画社会について、私は女性の方が弱く権利、立場で不利であるので平等にしたいという女性目線のものであるような考え方をしています。実際に男性の方が強いし(力)なかなかケンカでは勝てるものではないと思います。しかし最近では～ハラスメントという言葉が多くなってきているように思います。電車でも女性専用車両がありますが男性車両というものがなく通勤時、帰宅終電間際はとても苦しいような意見が多くあります。車両に関してはあれは法律で定められたものではないそうで、男女参画社会を築く背景を
- ・ セクシャルマイノリティの人々が生きやすい社会になりますように
- ・ セクシャルマイノリティでも生きやすい社会にして欲しい!
- ・ 世間にもっとセクマイの理解者が増えるといい
- ・ セクシャル・マイノリティについての世間の理解をもっと深め、アメリカのようにもっと公にしていけたら、未来は明るくなると思います。同性婚など、条例を見直していく必要があると考えます。

キ その他

- ・ 男女平等となる方法を今より増やしてほしい。
- ・ 男女平等参画について、私は女性の社会進出は好ましい事であると思う反面、女性専用車両や痴漢冤罪の増加、といった一部過剰とも捉えられかねない制度や、その裏を突いた手口によって男性が冷遇されているのではないかと感じることもあります。男女男平等を掲げるのであればそのあたりについてもう少し考えて頂けると嬉しいです。
- ・ 少子高齢化を止めたいのなら必要なし。女性の社会進出と共に出生率が下がっている。アホが増えるのをよしとするなら勝手にどうぞ。

- ・ 女性に対しての優先枠や地下鉄などの女性専用車両などの男女平等参画に反することをするべきでない。また男性についても同様なことを行うべきである。
- ・ いきすぎた女性優遇はやめてほしいと思う。例えば電車の女性専用車両、男性専用もつくれば良いと思う、女性は守られなければいけないから女性だけ専用車両が逆の意味で女性を特別視していると思う。
- ・ 名古屋市教育委員会の男性の育児休暇の目標率をもっと向上させるべき。!!
- ・ 女性が活躍する様子、活躍するような活動への取り組みの様子の HP があると意識が高まると思います。
- ・ 今の 30 代以上の世代が特に男女平等に非協力的で見ていて恥ずかしい。
- ・ 子育てができる環境が整っていないので、もっと若年が意識するようになるべきだと思う。
- ・ 昔の男女が不平等だった時を知らないため身勝手なことを言ってしまうが、男尊女卑はやりすぎだが今の女性押しもやりすぎな気がする。
- ・ なんだかんだ女性の方が強い！
- ・ 何事も程々が良いと思うので、押しつけないで下さい。(こうあるべきだ！みたいなのは良くないと思います)・女性の地位、人権、とばかり言って男性をないがしろにしている気がします。・交際経験のあり、なしの部分は配慮が欲しかったです。なしの人は傷つくと思います。
- ・ 男女平等参画！！とわざわざ言わなくても、リーダーになりたい人は自分から動いていると思う。また、女性をわざわざ登用することを男女～と言っているように感じる。男性の扱いを下げる運動という面もありそう。

(2) その他ご意見（要望、コメントなど）

- ・ イクメンって言葉が嫌いです。珍しいものをもてはやす感じが。4～6月まで放送していたドラマ「問題のあるレストラン」「デート～恋とはどんなものかしら」はそのようなテーマを扱っていて興味深かったです。
- ・ 女性専用車両の拡大によって、他の車両が混雑するのはどうかと思う。
- ・ 最近の若い者は、性や言葉、人の気持ちの深い所まで理解せず、自分かってな考えだけで、かいしゃくしてしまっている。それを、指摘しても、頭に入れることなく、ただ受け流していることをよくきく。
- ・ 自分の子供と遊びたい。
- ・ セクマイってなんですか？
- ・ 女性専用車両(地下鉄)を導入しても痴漢発生率は変わらないというデータがあるので、不要だと思う。むしろ女尊男卑ととられかねない。
- ・ 時間がなかったです
- ・ 女性専用車両を作るのなら男性専用車両も作った方がいいと思う。
- ・ DV って怖いですよ～。
- ・ 天白区すごい。育児支援や子どもの遊び場が充実していて、お母さんは働きやすいし、育児もしやすいだろうなと思いました。
- ・ 男とか女とか関係なく好きにすればいい
- ・ 僕は女子が好きなので、レディースファーストに賛成です。

(3) アンケートに関する意見

- ・ このアンケートのほとんどの設問は「社会的正義」の観点からすでに回答の決まっているものかと思う。このような問い、特に問 1, 2 のようなものは論外である。
- ・ 問2みたいな質問が出てくる時点で、このアンケートを作製した意味が不明である。このアンケートの作製者が男女共同参画の意味を理解していないのではないか。問1については論外である。

本調査は、男女平等参画若年層調査研究会（委員長 藤原 直子）が名古屋市総務局総合調整部男女平等参画推進室と協力して実施した。調査項目・集計・分析方法については共同で検討したが、本報告書は原則として分担で執筆した。

分担は以下の通りである。

藤原 直子（椙山女学園大学人間関係学部 教授）

第Ⅱ部 4

第Ⅲ部 1（4）

2

三枝麻由美（名古屋大学男女共同参画室 助教）

第Ⅱ部 1、3

第Ⅲ部 1（1）、（3）

佐藤 洋子（名古屋市立大学男女共同参画推進センター 特任助教）

第Ⅱ部 2、5

第Ⅲ部 1（2）、（5）

男女平等参画に関する大学生の意識調査（調査結果報告書）

平成 28 年 3 月

名古屋市男女平等参画推進会議（男女平等参画若年層調査研究会）

名古屋市総務局総合調整部男女平等参画推進室

〒460-8508 名古屋市中区三の丸三丁目 1 番 1 号

電話 052-972-2234 F A X 052-972-4112

この冊子は古紙パルプを含む再生紙を使用しています。